

地方独立行政法人神戸市民病院機構 平成 30 年度 年度計画

目次

重点項目

- 第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 1 市民病院としての役割の発揮
 - 2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献
 - 3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持
 - 4 市民及び患者とともに築くやさしい病院
 - 5 地域医療連携の推進
 - 6 神戸アイセンター病院の役割
- 第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
 - 1 優れた専門職の確保と人材育成
 - 2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり
- 第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
 - 1 安定的な経営基盤の維持
 - 2 質の高い経営ができる病院づくり
- 第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置
 - 1 中央市民病院における P F I 事業の円滑な推進
 - 2 市関連病院との連携
 - 3 神戸医療産業都市における役割
- 第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
- 第 6 短期借入金の限度額
- 第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
- 第 8 剰余金の使途
- 第 9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

(※) 神戸アイセンター病院は、眼科専門病院であることから、第 2 の項目（「3 - (3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底」を除く。）については、「6 神戸アイセンター病院の役割」に取りまとめて記載。

重点項目

地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下「市民病院機構」という。）は、中期計画に基づき、安定的な経営基盤を維持するため、年度計画の着実な実行及び達成に取り組む。また、市民病院機構が運営する神戸市立医療センター中央市民病院（以下「中央市民病院」という。）は市全域の基幹病院として、神戸市立医療センター西市民病院（以下「西市民病院」という。）は市街地西部の中核病院として、神戸市立西神戸医療センター（以下「西神戸医療センター」という。）は神戸西地域の中核病院として、神戸市立神戸アイセンター病院（以下「神戸アイセンター病院」という。）は、眼科領域における高水準の医療を行う基幹病院として、地域医療の中核を担い、質の高い医療の提供、患者サービスの一層の向上、地域医療機関等との連携強化等に努め、だれもが安心して医療を受けられる病院を目指し、市民の生命と健康を守るという市民病院としての使命を果たす。

特に、第2期中期計画期間の5か年度目となる平成30年度においては、次の項目を重点項目として取り組んでいく。

【法人本部及び共通】

- ・徹底した経営改善による経常黒字達成
- ・第3期中期計画策定及び運営費負担金の確保に向けた取り組み
- ・4病院体制におけるガバナンスの確立・維持
- ・優れた専門職の確保・定着及び育成
- ・コンプライアンスの徹底

【中央市民病院】

- ・救急医療体制の充実・高度医療の提供
- ・地域医療構想・地域包括ケアシステムを基盤とした病病・病診連携の強化
- ・病院資源の有効活用と経営の安定化
- ・第三者評価による医療の質の向上
- ・臨床研究・治験部門の強化

【西市民病院】

- ・毎日24時間救急医療の推進
- ・質の高い小児・周産期医療の安定的提供
- ・高水準の標準的医療を提供
- ・地域社会との連携及び在宅医療の支援の強化
- ・既存施設改修に伴う患者サービスの向上

【西神戸医療センター】

- ・救急医療体制の充実、質の高い小児・周産期医療の提供
- ・がん診療連携拠点病院機能の強化
- ・地域医療機関等との連携推進

- ・高度医療の提供
- ・結核医療の安定的な提供
- ・医療情報システムの更新等

【神戸アイセンター病院】

- ・標準医療の着実な提供と高度専門医療の実施
- ・眼に関してのワンストップセンターとしての機能強化
- ・iPS 細胞を活用した臨床研究をはじめとした治験・臨床研究の推進
- ・待ち時間対策等患者サービスの充実及び円滑な病院運営

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市民病院としての役割の発揮

(1) 救急医療

- ・地域医療機関と密接に連携しながら、引き続き安定した救急医療体制を提供し、「断らない救急」を実践する。

【中央市民病院】

- ・地域医療機関との適切な役割分担の下、救命救急センターとして24時間365日、あらゆる救急需要に対応することにより、引き続き市民病院としての役割を果たしていく。

具体的な取り組み

- チームによる救急医療体制を展開し、より迅速かつ的確な診断及び処置を行う
- 救急病棟，E I C U・C C U，第二救急病棟，M P U病棟を含めた救命救急センター（62床）の効率的な運用及び南館を含めた病床の一元管理の徹底に努め、病院全体で救急患者の受け入れ体制の充実を図る
- 脳卒中，胸痛，産科，小児科ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する
- 他院からの転送依頼について、受け入れられなかった患者の検証を行い「断らない救急」に努める

【西市民病院】

- ・内科系・外科系全日24時間1次2次救急医療体制ならびに小児科2次救急輪番体制を継続し、地域医療支援病院としての役割を果たす。

具体的な取り組み

- 救急車搬送患者の受け入れを断った理由の分析とともに受入促進のための改善策を救急委員会で検討し、救急車応需率80%を目指す

【西神戸医療センター】

- ・年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し、地域住民の安心及び安全を守る。

具体的な取り組み

- 脳卒中、循環器に加えて平成28年度より開始した吐下血ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する
- 救急車の応需状況を、院長・副院長会において毎週報告するとともに、受け入れられなかった救急車搬送患者について、その理由を把握し、救急車の受入れ推進方策を検討することにより救急車受入れ件数の増加を目指す
- 円滑な救急車の受入れを図るため、院長が西消防署、垂水消防署を訪問し、現場の消防署員と意見交換を行う

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	救急外来患者数	34,415
	うち入院	7,463
	うち救急車受入	9,659
西市民病院	救急外来患者数	14,235
	うち入院	3,060
	うち救急車受入	2,976
西神戸医療センター	救急外来患者数	22,655
	うち入院	2,721
	うち救急車受入	3,493

(2) 小児・周産期医療

- ・市民が安心して子供を産み、かつ、育てられるように、質の高い小児・周産期医療を安定的に提供する。

【中央市民病院】

- ・総合周産期母子医療センターとして医師確保及び養成に努め、ハイリスクな出産にも対応できる受け入れ体制の維持に努める。
- ・成育医療センターにおいて、小児・周産期医療に加え、産科、新生児科、小児科が一体となり、次世代を担う子ども達が健やかな成長発達を遂げるように支援する。

具体的な取り組み

- 総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等母体又は児におけるリスクの高い妊娠への対応を積極的に行う。また、低出生

体重児や病気をもった新生児についても、最新の医療技術を用いて診断し、救命に努めていく

○連携登録医など地域医療機関と、定期的な情報交換と患者情報の共有を図るとともに、母体搬送・産褥への受け入れ、小児科受診への円滑な対応に努める

【西市民病院】

- ・市街地西部の中核病院として、正常分娩を中心とした周産期医療を安定的に提供するとともに、小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療の安定的な提供に努める。

具体的な取り組み

- 正常分娩や未成年層や高齢出産等のハイリスク分娩への対応などにおける質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに、助産師外来の継続など妊婦の多様なニーズに応える
- 小児救急輪番への貢献を継続するとともに、小児科病棟の一部個室化により感染症対応の充実を図るなど、小児医療を安定的に提供する

【西神戸医療センター】

- ・小児救急においては、準夜帯（17時～24時）の救急受診の受け入れを継続する。また、小児科医師の確保に努め休止している金曜日の受け入れ再開をめざすとともに、引き続き小児救急輪番に参加し、神戸こども初期急病センターの受け皿となる等、小児医療を安定的に提供する。
- ・神戸西地域の中核病院として、地域医療機関での対応が困難な高齢や合併症を有するハイリスクな妊婦や救急時の受け入れをはじめ、安定した周産期医療を提供する。

具体的な取り組み

- 県立こども病院移転に伴い、合併症妊娠、妊娠30週以降の切迫早産等リスクの高い妊娠への対応の充実を図ることで、質の高い周産期医療を提供する

関連指標

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	小児科患者数（人） 入院延	11,292
	外来延	13,735
	小児科救急患者数（人） うち入院	2,161 763
	N I C U患者数（人）	2,799
	分娩件数（件） うち帝王切開	797 310

	ハイリスク妊娠件数（件）	105
	ハイリスク分娩件数（件）	140
	助産師外来患者数（人）	227
西市民病院	小児科患者数（人） 入院延	3,595
	外来延	8,890
	小児科救急患者数（人）	432
	うち入院	189
	N I C U患者数（人）	N I C U未設置
	分娩件数（件）	479
	うち帝王切開	111
	ハイリスク妊娠件数（件）	32
西神戸医療センター	小児科患者数（人） 入院延	7,468
	外来延	17,987
	小児科救急患者数（人）	5,781
	うち入院	484
	N I C U患者数（人）	N I C U未設置
	分娩件数（件）	640
	うち帝王切開	201
	ハイリスク妊娠件数（件）	76
ハイリスク分娩件数（件）	74	
助産師外来患者数（人）	231	

(3) 結核・感染症医療

- ・新興感染症発生時等には、感染症指定医療機関である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。

【中央市民病院】

- ・新興感染症発生時においては、新型インフルエンザ患者の受け入れ経験を生かし、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら速やかに患者を受け入れられる体制を整備する。

具体的な取り組み

- 新興感染症発生時に対応できるよう、行政機関が行う訓練に参加する等関係機関と連携した対応を円滑に行うほか、市全域における安全確保に向けて率先した対応を行う
- エボラ出血熱をはじめとした一類感染症、鳥インフルエンザ、結核等に対応する感染症指定医療機関としての役割を果たすため、感染管理室が中心となって、職員の安全面を確保のうえ取り組む

【西市民病院】

- ・新興感染症発生時等には、中央市民病院や市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。
- ・新興感染症発生時には、中央市民病院の患者の転院を受け入れる等連携を図るとともに、感染対策チームメンバーを中心として、医療課題への対応に取り組む。

【西神戸医療センター】

- ・新興感染症発生時等には、中央市民病院、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、市民の安全を確保する。
- ・市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し、引き続き総合的な結核医療を提供する。

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	感染症延患者数（一類）	0
	感染症延患者数（二類）	20
	H I V 患者数	47

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成 28 年度実績	
西神戸医療センター	結核延患者数（人）	入院	10,641
		外来	422
	結核新規患者数（人）	入院	165
		外来	116

(4) 災害医療その他の緊急時における医療

- ・大規模災害発生時等には、災害拠点病院である中央市民病院を中心に、市、県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。また、非常時にも継続して医療を提供できるように平時から対応マニュアルの整備や訓練及び研修会への参加等に積極的に取り組み、危機対応能力を高め、自ら考え行動できる職員を育成する。

【中央市民病院】

- ・阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし、大規模地震をはじめとした様々な災害に万全の対応を図る。
- ・大規模災害時に災害拠点病院としての役割を果たせるよう、受け入れ体制を万全にする。

具体的な取り組み

- 災害拠点病院の新たな要件となった病院BCPの策定を30年度に行うとともに、引き続き院内合同防災訓練、各部署での訓練を実施し、一人一人の危機対応能力を高め、災害拠点病院としての役割を果たせるよう、受け入れ体制を万全にする

【西市民病院】

- ・大規模災害発生時等には、中央市民病院、西神戸医療センター、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、神戸市災害対応病院として市民の安全を確保する。

具体的な取り組み

- 災害時の病院組織の危機対応能力を高め、職員が自ら考え行動できるように、災害対応訓練や研修会を実施するとともに、阪神・淡路大震災の経験を踏まえて、災害対策について病院全体で取り組みを進める

【西神戸医療センター】

- ・大規模災害発生時等には、中央市民病院、西市民病院、市、県及び地域医療機関と連携を行い、円滑な対応を図ることで、神戸市災害対応病院として、市民の安全を確保する。

具体的な取り組み

- 神戸市の災害対応病院として、災害時等に備え、危機対応能力を高め、自ら考え行動できるよう防災訓練等を行うとともに、必要に応じて随時マニュアルを改訂する等、災害対策について病院全体で取り組みを進める

関連指標

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	災害訓練回数（回）	27

	災害訓練参加者数（人）	1,256
	災害研修回数（回）	6
	被災地等への派遣件数（件）	1
西市民病院	災害訓練回数（回）	40
	災害訓練参加者数（人）	530
	災害研修回数（回）	3
	被災地等への派遣件数（件）	2
西神戸医療センター	災害訓練回数（回）	37
	災害訓練参加者数（人）	566
	災害研修回数（回）	0
	被災地等への派遣件数（件）	0

2 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

(1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

- ・3病院の医療機能に応じ、身体の負担が少ない手術や検査の充実等、より高度な医療及び専門的な医療を提供する。また、複数の疾患を持つ患者に対応できるように診療科の枠を超えた医療や質の高い総合的な診療を充実していく。さらに、疾病構造の変化や医療需要と供給のバランスに応じて適宜、機能に応じた医療を提供する。

【中央市民病院】

- ・市全域の基幹病院として、より高度で専門性を必要とする疾患に対応していくため、専門外来をはじめ、内科系医師,外科系医師,コメディカル等がチームを組んで治療に当たる体制を充実し、引き続き高度専門医療センターの運営を行う。また、先進医療等にも積極的に取り組む。

具体的な取り組み

- 手術支援ロボット（ダヴィンチ）の活用及びTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）の実施、体外式膜人工肺（ECMO）による治療など高度で質の高い医療を提供する
- 患者の負担軽減を図るためにも、侵襲性の低い内視鏡手術をより一層増加させる
- 腫瘍内科において、各種悪性腫瘍の診断、治療方針の決定及びがん化学療法の実施とともに地域医療機関（紹介元）との連携に引き続き取り組む
- 移植・再生医療センターでは、先端統合により増床された無菌室・準無菌室を有効に活用し、より一層移植医療を充実させ、高度で質の高い医療の提供に取り組んで

いく。また、移植を受けた患者さんの移植後の生活をより良いものにするために、看護師による移植後長期フォローアップ外来を引き続き行う

【西市民病院】

- ・専門性の高い医療を提供するとともに、地域密着型病院として、地域が必要とする医療を強化する。

具体的な取り組み

- 腹腔鏡下手術（手術支援ロボットによるものを含む）、胸腔鏡下手術及び内視鏡手術等、侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う
- 増設したCTを活用し、循環器内科分野にも対応しながら、需要が増加しているCT検査を円滑に実施する
- 多目的X線透視撮影装置及び乳房X線撮影装置・超音波診断装置の更新を行うことで検査の充実を図る
- 拡張された内視鏡センターの効率的な運用を行い、鎮静剤を用いた内視鏡検査の充実を図る
- こうべ市歯科センターの救急対応及び後送システムを継続するとともに、日帰り全身麻酔手術を積極的に行う
- 高齢化の進む地域性を踏まえた診療科体制の強化を行い、眼科白内障手術を再開する
- 地域包括ケア病棟を運用することで、入院患者の在宅復帰支援・調整を強化し、地域包括ケアシステムを推進するとともに、病院全体で効率的な病床利用を図る

【西神戸医療センター】

- ・がん関連の専門外来や化学療法の実等により、市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供する。また、カテーテル治療や内視鏡治療の充実を図ることで、低侵襲な高度医療を提供する。
- ・市民が適切な医療を身近な地域で受けられるよう、増室した手術室や手術支援ロボット、新たに導入したPET-CT等の高度医療機器を活用して、高度専門医療を提供していく。

具体的な取り組み

- 腹腔鏡下手術（手術支援ロボットによるものを含む）、胸腔鏡下手術等、侵襲性の低い手術や検査を引き続き積極的に行う
- 新たに導入したPET-CTを活用することにより、更なるがん診断機能の向上を図る
- がん関連の専門外来（薬剤師外来・がん看護外来等）や化学療法センターを活用することで、がん診療をはじめ、市民の多様な医療ニーズに対応した専門医療を提供する

○内視鏡センターを活用し、件数が増加している内視鏡検査及び治療を充実していく。また、鎮静を行う内視鏡検査・治療の実施により侵襲性の低い高度医療を提供する

関連指標

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	検査人数（C T）（人）	49,286
	検査人数（M R I）（人）	17,296
	検査人数（P E T）（人）	2,296
	検査人数（心臓血管造影）（人）	1,060
	検査人数（脳血管造影）（人）	726
	手術件数（手術室で実施）（件）	13,177
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	1,803
	内視鏡による手術件数（件）	3,029
西市民病院	全身麻酔実施件数（件）	9,626
	検査人数（C T）（人）	15,684
	検査人数（M R I）（人）	4,449
	検査人数（P E T）（人）	-
	検査人数（心臓血管造影）（人）	218
	検査人数（脳血管造影）（人）	-
	手術件数（手術室で実施）（件）	3,032
	うち腹腔鏡・胸腔鏡	714
西神戸医療センター	内視鏡による手術件数（件）	1,377
	全身麻酔実施件数（件）	2,062
	検査人数（C T）（人）	21,740
	検査人数（M R I）（人）	10,241
	検査人数（P E T）（人）	-
	検査人数（心臓血管造影）（人）	564
	検査人数（脳血管造影）（人）	177
	手術件数（手術室で実施）（件）	6,075
うち腹腔鏡・胸腔鏡	1,027	
西神戸医療センター	内視鏡による手術件数（件）	2,030
	全身麻酔実施件数（件）	3,182

(2) 5 疾病（がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病及び精神疾患）への対応

- ・それぞれの疾患について，地域医療機関との役割分担及び連携を明確にしたうえで，3 病院に求められている使命を果たす。なお，精神疾患については，身体合併症への対応を中心に取り組む。

【中央市民病院】

- ・がん治療については，地域がん診療連携拠点病院として，地域連携パスを活用しながら地域医療機関との連携を図り，侵襲性の低い治療，化学療法及び放射線治療等をより多くの患者に提供する。

具体的な取り組み

- がんセンターでは，高度ながん治療と緩和医療を提供することにより，がん患者の QOL（生活の質），治癒率の向上を図る
- 5 大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す
- 新規の抗がん剤についても積極的に導入し，最適ながん薬物療法を提供する。新規の抗がん剤は未知の副作用発現の可能性もあるため，薬剤師は副作用の早期発見に努める
- 臓器別ユニット外来において，胃がんは消化器内科や消化器外科，肺がんは呼吸器内科や呼吸器外科といった各臓器に対応可能な医師が診療にあたり，また腫瘍内科，放射線治療科，外来化学療法センター，手術部等とも協働し，専門的ながんに対応する
- 病棟および外来化学療法センターにおいて薬剤師による副作用の説明や治療開始後のモニタリングを行うことにより，安全な治療を提供する。また，外来化学療法センターでは，外来通院治療機能の充実を図るために，がん患者に対する化学療法や血液浄化療法及び外来腹膜透析の管理指導等を行う
- 緩和ケア外来において，医師，看護師，薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロール，不安・不眠等の心理的問題への対応，患者や家族の悩み相談，開業医に対する薬剤情報提供等により，がん患者の QOL の改善に貢献する
- がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し，地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす
- がん患者の栄養指導を積極的に行い，入院，外来とも低栄養の改善，予防につなげる

- ・脳卒中治療及び急性心筋梗塞治療については、高度な治療技術を提供すると共に、患者や家族の要望を踏まえた上で、出来る限り早期にリハビリへの移行を図ることができるような体制を維持する。また、糖尿病については、フットケア等のチーム医療活動の充実を図り、精神疾患については、身体合併症患者を中心に受け入れていく。

具体的な取り組み

- 脳卒中センターでは、S C U（脳卒中ケアユニット）を引き続き設置し、救命救急センターとの連携の下、ホットラインを活用し24時間体制で専門医による脳卒中診療を行う
- 心臓センターでは圏域内の心・大血管疾患の中心的病院として救命救急センターとの連携の下24時間対応できる体制により、救命に寄与する
- 精神疾患については、精神科身体合併症病棟を活用し、精神疾患に合併した急性期の身体疾患により入院治療の必要性のある患者を受け入れていく

【西市民病院】

- ・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域の中核病院の役割を果たす。特に、がん治療については、患者の負担が少ない手術や高水準の治療をより積極的に行い、患者のQOLの向上に取り組むとともに、化学療法や市民病院間との連携による放射線治療の充実を図る等、専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を發揮する。

具体的な取り組み

- がん治療については、低侵襲かつ安全な手術や臓器機能の温存術の実施、化学療法等に取り組むとともに、放射線治療施設を有する市関連病院や市内の医療施設と連携して放射線治療を実施する
- 「がん看護相談室」を継続し、がん患者及び家族に対する精神的支援や啓発活動を行うなど、多様なニーズに対応する
- 前立腺がん（泌尿器科）・胃がん（消化器外科）・子宮がん（産婦人科）について、手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用し、従来の手術より低侵襲で安全な手術に取り組む
- 急性心筋梗塞については、循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療を行うとともに、心臓リハビリテーションの充実を図る
- 糖尿病については、引き続き、糖尿病教室の開催等に取り組むとともに、糖尿病地域連携パスの運用による地域医療機関との連携を図る
- 精神疾患については、各精神科病院から「精神保健福祉センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか、地域の専門病院との連携にも努める
- 認知症鑑別診断を引き続き実施し、神戸市長田区認知症連携パスの運用も継続する
- 神戸市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に協力するとともに、地域の医療機関と協力しながら認知症疾患への対応を強化する

【西神戸医療センター】

- ・5疾病については、引き続き地域医療機関と連携を図りながら、地域で求められている役割を果たす。特に、がん治療については、地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の専門性を最大限に活かし、多職種スタッフの力を結集し、地域医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を整備・構築する。

具体的な取り組み

- 手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用し、泌尿器科において前立腺悪性腫瘍や腎がんに対し、より侵襲性が低く安全な手術に取り組む
- 高度ながん治療と診断早期から緩和医療を提供することにより、がん患者のQOL（生活の質）、治癒率の向上を図る
- 5大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下、患者の視点に立った、安心で質の高い医療を提供していくことを目指す
- 新たに導入したPET-CTを活用することにより、更なるがん診断機能の向上を図るとともに、内視鏡センターにおける早期発見・治療、化学療法センターにおける最適ながん薬物療法、放射線治療部門における、高度な放射線治療を提供することで、総合的ながん診療を実施していく
- 薬剤師は、服薬の継続が困難な抗がん剤等を中心に薬剤師外来において服薬指導を適切に行う
- 緩和ケア外来と緩和ケアチームにおいて、医師、看護師、薬剤師等多職種によるがん患者の症状コントロール、不安・不眠等の心理的な問題への対応、患者や家族の悩み相談等により、がん患者のQOLの改善に貢献する
- 外来・入院それぞれの状況に応じた栄養サポートを提供できるよう、がん患者への栄養指導を積極的に行う
- 国立がん研究センター認定がん相談支援センターにおいて、「認定がん専門相談員」による質の高い相談体制の充実を図るほか、がん患者への支援や情報提供を行い、がん患者サロン開催や暮らしの相談（就労支援）の導入に取り組む等、がん患者支援の強化を図る
- 急性心筋梗塞については、ホットラインを活用するとともに、引き続き循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療への対応を行う
- 糖尿病透析予防指導について、医師、看護師、管理栄養士が取り組み、体制の強化を図る
- 脳卒中については、ホットラインの運用で、救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を継続する

○入院や疾患に伴って生じるさまざまな問題について精神科リエゾンチームによる支援や、高齢者・認知症サポートチームによる支援を行う等、患者やその家族が安心して治療を受けることが出来るよう努めていく

関連指標

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	がん退院患者数（人）	4,464
	がん患者外来化学療法数（人）	9,496
	がん患者放射線治療数（人）	9,420
	緩和ケア外来延べ患者数（人）	2,048
	がん患者相談受付件数（件）	691
	脳卒中退院患者数（人）	1,100
	急性心筋梗塞退院患者数（人）	122
	糖尿病退院患者数（人）	166
	精神・神経科が関わった救急入院患者数 ^{*1} (人)	50
	身体合併症受入延患者数（人）	1,849
	認知症鑑別診断数（件）	95
西市民病院	がん退院患者数（人）	2,073
	がん患者外来化学療法数（人）	2,373
	がん患者放射線治療数 ^{*2} （人）	109
	緩和ケア外来延べ患者数（人）	-
	がん患者相談受付件数（件）	15
	脳卒中退院患者数（人）	54
	急性心筋梗塞退院患者数（人）	12
	糖尿病退院患者数（人）	114
	精神・神経科が関わった救急入院患者数 ^{*1} (人)	-
	身体合併症受入延患者数（人）	273
	認知症鑑別診断数 ^{*3} （件）	144
西神戸医療センター	がん退院患者数（人）	3,131
	がん患者外来化学療法数（人）	5,884
	がん患者放射線治療数（人）	10,112
	緩和ケア外来延べ患者数（人）	1,198
	がん患者相談受付件数（件）	735
	脳卒中退院患者数（人）	295

	急性心筋梗塞退院患者数（人）	43
	糖尿病退院患者数（人）	106
	精神・神経科が関わった救急入院患者数 ^{※1} (人)	—
	身体合併症受入延患者数（人）	20
	認知症鑑別診断数（件）	—

※1 精神疾患診断初回加算（自殺企図等による重篤な救命救急入院の患者であって精神科の医師が精神疾患に対する診断治療を行った場合に算定可能）を算定している患者数

※2 西市民病院のがん患者放射線治療数は他病院への紹介患者数

※3 認知症鑑別診断の予約枠での診断数（ ）内）に加えて、精神・神経科外来を受診され、認知症鑑別が必要となった患者もカウント

(3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

- ・あらゆる部門や職種を超えた良好なコミュニケーションの下に、より専門的な診療を実現するため、チーム医療を一層推進する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

- 心臓血管外科と内科とで、大動脈弁狭窄症やコ罗那リー（冠動脈）手術及び術後ケアに関する連携を強化する
- 下肢静脈瘤について、心臓血管外科が中心となり形成外科と皮膚科とで連携した診療体制を構築する
- 膠原病患者に対しては、総合内科を中心に関係各科が連携した診療体制を構築する
- 腫瘍内科においては、患者や診療科のニーズに合わせた横断的な腫瘍のための医療を提供していく
- 入院前または入院当初より、患者の病歴をはじめ身体的・社会的危険を評価するリスクアセスメントを行い、早期より各種チームが連携して問題解決に取り組み、安全で安心な医療を提供する

（西市民病院）

- 複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成するチームにおいて、定期的なカンファレンスで、コミュニケーションを図るとともに、事例検討等で情報交換を行い、患者へのより良い治療・ケアにつなげる
- チームによる回診を定期的実施し、患者を中心とした活動を積極的に行う

- 診療科医師，看護師，薬剤師等の連携により，入院前オリエンテーションを充実させ，患者の安心感・安全性の向上を図る

(西神戸医療センター)

- 複数の診療科医師，看護師，コメディカルで構成するチームにおいて，定期的なカンファレンスやチーム回診でコミュニケーションを図るとともに，事例検討等で情報交換を行い患者へのより良い治療・ケアにつなげる
 - 新たに設置した入院前支援センターにおいて，患者の病歴をはじめ身体的・社会的危険を評価するリスクアセスメントを行い，早期より各種チームが連携して問題解決に取り組み，安全で安心な医療を提供する
 - 高齢者の肺炎患者等については，入院当初より，積極的なリハビリを実施することにより，廃用症候群等のリスクを軽減し，患者のADLを維持していく
- ・各専門職がそれぞれの専門性を発揮し，より良い医療を提供する。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- NST（栄養サポートチーム），摂食嚥下チーム，褥瘡対策チーム，口腔ケアチーム，緩和ケアチーム，呼吸管理サポートチーム，フットケアチーム，HIV/AIDSSサポートグループ，せん妄ケアチーム，精神科リエゾンチーム，ICT（感染管理チーム），CAPS（児童虐待防止チーム），AAA（成人虐待防止チーム），排尿ケアチームによる専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく
- 入院診療計画書の特別な栄養管理の有無については，入院時に医師，看護師，管理栄養士等，多職種で確認する。また，特別な栄養管理の必要性の有無の基準を明確にするとともに，特別な栄養管理が必要な患者への介入を確実に行う
- 低栄養のリスクの高い患者の簡便なスクリーニング方法を構築し，入院時の栄養管理につなげる
- 院内の栄養管理体制の充実のため，管理栄養士の病棟担当の役割を強化し，各病棟のNSTサテライトチームの充実，医師，看護師，薬剤師等との連携を進める
- NSTコアと各病棟でのNSTサテライトとが連携を強化し，NST加算算定の増額につなげる
- 栄養管理に関わるTNT（臨床栄養教育プログラム）修了医師やNST専門療法士を増やしていく
- リハビリテーションへの的確な移行時期を把握するため，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士と医師，病棟看護師との連携を引き続き実践していく

(西市民病院)

- NST (栄養サポートチーム), 褥瘡対策チーム, 緩和ケアチーム, リエゾン・認知症ケアチーム, 糖尿病チーム, 感染対策チーム (ICT), 呼吸管理チーム, CPR (心肺蘇生) チーム, 禁煙チーム, 災害対策チーム, 小児アレルギーチーム, 抗菌薬適正使用支援チーム (AST), 改善活動チームによる専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく
- NSTにおいては, 新たに導入した部門システムを活用し, 栄養不良の入院患者の抽出・評価や栄養改善に取り組み, 早期の回復・退院を進める
- リエゾン・認知症ケアチームが中心となり, リエゾン回診や院内カンファレンスを通じて病院全体として認知症や精神症状をもつ患者への対応力やケアの質の向上に取り組む
- リハビリテーションについては, 各職種連携により, 地域包括ケア病棟及び土曜日リハビリテーション診療を含め, 充実したリハビリテーションの提供を継続する

(西神戸医療センター)

- NST (栄養サポートチーム), 褥瘡対策チーム, 緩和ケアチーム, RMT (呼吸ケアマネジメントチーム), 精神科リエゾンチーム, ICT (感染対策チーム), 糖尿病療養指導支援チーム, 高齢者・認知症サポートチーム, ICLS教育推進チーム, 排尿ケアチームによる専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践していく
- NSTにおいては, 引き続き多職種で連携し, 口腔ケアや嚥下機能評価 (臨時回診含む), サルコペニアスクリーニングを継続的に行っていく
- 「新・チーム医療勉強会」を継続開催することにより, チームの活動内容を院内に周知し, 情報共有を図るとともに, 新たなメンバーの確保に努める
- 病棟での薬剤師業務を継続し, 看護師の負担を減らすとともに, 院内の栄養管理体制の充実のため, 管理栄養士の病棟担当の役割を強化する等, 医療安全・患者サービスを向上させる
- 各職種の連携のもと, 土曜・休日リハビリテーションを含め, 充実したリハビリテーションの提供を継続する

関連指標

(単位: 件)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	薬剤管理指導件数	25,245
	栄養指導件数	個別
	集団	3,253
		341

	リハビリ実施件数	運動器	24,031
		脳血管疾患等	52,932
		呼吸器	18,098
		心大血管疾患	14,510
		がん患者	9,657
		廃用症候群	10,280
		口腔ケア実施件数	3,340
西市民病院	薬剤管理指導件数		13,784
	栄養指導件数	個別	1,908
		集団	77
	リハビリ実施件数	運動器	12,253
		脳血管疾患等	5,027
		呼吸器	10,271
		心大血管疾患	855
	がん患者	1,386	
	廃用症候群	10,041	
	口腔ケア実施件数		1,732
西神戸医療センター	薬剤管理指導件数		20,627
	栄養指導件数	個別	1,883
		集団	53
	リハビリ実施件数	運動器	11,907
		脳血管疾患等	13,946
		呼吸器	4,674
		心大血管疾患	881
	がん患者	3,706	
	廃用症候群	5,545	
	口腔ケア実施件数		101

(4) 臨床研究及び治験の推進

- より有効で安全性の高い治療を目指し、より多角的な視点から新薬や新医療機器の開発及び再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため、治験及び臨床研究に積極的に取り組む。なお、実施にあたっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりや

すい説明を行った上で同意を得ること。)を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 臨床研究推進センターを中心に、臨床研究中核病院の要件である特定臨床研究や医師主導治験の実施を推進・支援する
 - 臨床研究中核病院の要件を踏まえて、臨床研究支援体制やデータセンターなど、治験・臨床研究推進に向けた体制，機能の充実に取り組む
 - 院内講習会等を通じて臨床研究倫理についての啓発に努めるとともに，利益相反管理委員会において利益相反についての透明性の確保や適正な管理に取り組む
 - 再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため，先端医療振興財団や独立行政法人理化学研究所神戸事業所と連携し，治験及び臨床研究に取り組んでいく
- ・高度で多岐に渡る医療の実践により蓄積された豊富な臨床データをもとに，今後の医療の方向性を指し示せる情報を発信する。また，論文投稿や学会発表等により医療の発展に貢献する。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 学術支援センターにおいて，研究発表の実績数や質の向上を目的に，研究の立案から論文発表までの各段階で，統計解析，スライド作成，ポスター印刷，英文翻訳・校閲援助など，職員の学術研究を引き続きサポートする。中央市民だけでなく市民病院機構内の他の3病院についても可能な範囲でサポートし，機構全体の学術研究に対する意欲を高めていく

関連指標

(単位：件)

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	治験実施件数	124
	受託研究件数	212
	臨床研究件数	152
	論文掲載件数	238
	学会発表件数	860
西市民病院	治験実施件数	4
	受託研究件数	49
	臨床研究件数	20
	論文掲載件数	36

	学会発表件数	96
西神戸医療センター	治験実施件数	8
	受託研究件数	102
	臨床研究件数	39
	論文掲載件数	81
	学会発表件数	285

3 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

(1) 医療の質を管理することの徹底（クリニカルパス及び臨床評価指標の充実等）

- ・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）、臨床評価指標及びDPC/PDPS（診断群分類に基づく1日当たり定額報酬算定制度）データ等を活用する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

- クリニカルパス学会標準のマスタを導入したクリニカルパスを新システム上で円滑に運用する
- DPCを用いてコスト等の面からクリニカルパスを評価し、改善する。疾患ごとの入院期間を確認し、クリニカルパスの見直しを診療科に提案していく

（西市民病院）

- DPCデータ分析を行い、院長ヒアリングや業務経営改善委員会等において、各診療科に向けて入院診療に関する改善提案等を積極的に行う
- クリニカルパスについては、実状に合わせて追加・改定及び削除を行い、医療の標準化を進める
- クリニカルパスに関する「パスワンポイントマニュアル」やトピックスを記載したニューズレターを活用し、パスの普及を行う

（西神戸医療センター）

- 院長ヒアリング等において、DPCデータ等を参考に改善提案等を各診療科に向けて積極的に行う
- クリニカルパスについては、実状に合わせて追加・改定、及び削除を行い医療の質の標準化を進める

- ・医療機能評価の受審等、外部評価も積極的に活用し医療の質向上を図る。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 病院機能評価を 30 年 8 月に受審するため、受審に向けて医療の質の向上に取り組んでいく
- 臨床検査部門において国際規格 ISO15189 を取得し医療の質の向上を図る
- 卒後臨床研修評価の更新時の評価項目を踏まえ、引き続き医療の質の向上に取り組んでいく
- 医療情報システムの内部監査を年 1 回行い、医療情報システム運用の安全性の向上を図る
- 診療録監査を行うとともに、新システムを踏まえた診療情報監査規定の改訂を行う

(西市民病院)

- 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新認定を受けるとともに、改善の必要な事項に関して対策を実践し、医療の質向上に努める（前回は平成 26 年 2 月受審，平成 26 年 5 月より 5 年間の更新認定）
- NPO 法人卒後臨床研修評価機構の認定施設登録について、再受審し施設認定を更新する（前回平成 28 年 8 月 1 日～平成 30 年 7 月 31 日）

(西神戸医療センター)

- 平成 27 年度に受審した病院機能評価の結果及び 29 年度の「認定期間中の確認」等の外部評価をもとに、必要な事項は改善し、医療の質向上に努める

【中央市民病院】

- ・ICT化による医療情報データベースを最大限に活用するとともに、診療情報を一元管理し、医療の質向上と経営の効率化を図る。

具体的な取り組み

- 電子カルテを含む医療情報システム更新作業を着実に実施し、データ移行も含め切り替えに伴う診療への影響を最小限に抑えつつ着実に実施し、安定稼働を実現したシステムの構築をする
- 新医療情報システムを有効に活用し、効率的な診療の実現、安全安心な医療の推進、医療経営に資するデータの提供など、システムを最大限活用していく
- C I（臨床指標）・Q I（医療の質評価指標）について定期的な検討会で分析内容を検討した上で、改善策を講じ、改善結果をデータで確認する
- 診療補助や学術研究のための診療情報の 2 次利用について、費用削減の観点から院内開発を進める

- ・医療情報の共有化を進め、市関連病院をはじめとした地域医療機関とのさらなる連携を行う。

具体的な取り組み

- 市関連病院を中心とした医療情報システムの相互閲覧の利用を促進する

【西市民病院】

- ・電子カルテ及び部門システムを中心に院内ICT化を促進する。

具体的な取り組み

- 電子カルテの円滑な運用と医療情報システムの充実により、医療安全や患者サービスの向上、業務の効率化を図る
- 年1回以上情報セキュリティに関する研修を行うなど、情報セキュリティ対策を推進する
- 臨床評価指標を更新するとともに、電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ、より有用な指標の設定に向けた検討を行う

【西神戸医療センター】

- ・電子カルテを中心とした病院総合情報システムにより、医療の質・安全の確保を図り、患者サービスの向上に努める。また、管理運営支援・経営支援として活用し経営の効率化に繋げる。

具体的な取り組み

- 電子カルテを含む医療情報システムの更新を円滑に実施する
- 電子カルテの円滑な運用と医療情報システムの充実により、医療安全や患者サービスの向上、業務の効率化を図る
- 年1回以上情報セキュリティに関する自主監査を行うなど、情報セキュリティ対策を推進する

関連指標

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	クリニカルパス数（種類）	445
西市民病院		217
西神戸医療センター		214

目標値 (実績値は平成28年度・目標値は平成30年度)

病院名	項目	目標値	平成28年度実績
-----	----	-----	----------

中央市民病院	クリニカルパス 適用率（%）	60.0 以上	62.6
西市民病院		50.0 以上	47.7
西神戸医療センター		60.0 以上	62.7

(2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化

- ・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように、医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に、医療安全に関する情報の収集及び分析を行い、医療安全対策の徹底及び医療安全文化（医療職も患者と共に医療の安全について考えていくことで事故防止を目指す考え方）を醸成する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

○院内シミュレーション研修の充実

各種医療技術の実施にあたっては、できるだけシミュレーション用の器具や人形を用いた研修を実施する。必要な研修を終えたものには資格証を発行し、その認証によって初めて侵襲的な処置の実施を許可する。ただし各診療科独自の専門的手技は除外する

○全職員年2回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う。講演会を含め、年間の計画を作成・公表し、各々の職員が計画的に受講できるように働きかける。

○医療安全教育のためのケーススタディ e ラーニングをベースとした機材を活用し、医療安全研修の一環とする

○医療安全マニュアルの見直しを各部門（KMCP, 協賛法人含む）において行えるよう準備し、実施する

○改定が必要なマニュアルに関しては医療安全管理会議等で討議し、決定事項について医療安全リーダーを通じて各部署の職員へ周知する

○医療安全のためのチームワーク推進活動である「T e a m S T E P P S」に関しては、効果的な研修方法や時間を検討し、実施していく

○RRS（院内救急対応システム）を全部署で展開できるようになってきたが、南館での運用や、脳血管障害を疑う事例発生時の運用をワーキンググループで見直し、患者の急変に備えることができるようにする。また、院内CPAの発生件数等で評価し、今後の活動に繋げる

○医療安全管理室・薬剤部との連携による院内講習会の開催により、医薬品適正使用の推進を啓発する

○インスリン療法に関する研修を医師・看護師・薬剤師を講師として企画し、実施する

○入院を機に内服処方内容を総合的に評価したうえで、薬剤師提案で薬の整理（減量）を推進する方策を検討し、医療安全管理室はポリファーマシーに関する取り組みを病院全部署で行っていきけるよう、関係部署に調整し、実施していく

(西市民病院)

- 医療安全管理室を中心として医療安全集中管理ソフトを活用し、インシデント事例の迅速な収集と共有を図るとともに、要因分析に努め、再発防止及び発生予防に取り組む
- 医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに、要点を業務経営会議で報告することにより、各診療科・各部門に周知する
- 病院職員全体を対象とした、医療安全研修会を実施する

(西神戸医療センター)

- 医療安全集中管理ソフトを活用し、迅速な情報収集を図るとともに、週1回の医療安全推進室コア・ミーティングにおいてインシデント・アクシデントに関して分析にも努め、再発防止及び発生予防に取り組む
- 医療安全推進委員会作業部会を定期的に開催するとともに、要点を病院運営協議会で報告することにより、各診療科・各部門に周知する
- 改定が必要なマニュアルに関しては医療安全推進委員会等で討議し、決定事項について各部署の職員へ周知・徹底する
- 全職員年2回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う
- 人工呼吸器等、患者の生命維持に直結する医療機器等が更新等になった場合に、使用する職員に対して、臨床工学技士より操作研修や使用方法等のマニュアル配備を徹底することで、誤操作等の事故を防止する

- ・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し、その内容を分析することにより再発防止に取り組む。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 医療安全ニュースや注意喚起文を発行するとともに、他病院での医療事故報道も含め、関連事項に関する研修会を企画し、実施する。
WEBMINKに掲載している医療安全ニュース、安全情報、PMDA警告文書に関しても情報を全職員に周知する。また、当院で発生したインシデント、アクシデント事例に関しても、PMDA等に情報提供を行っていく

- インシデントレポート提出促進を行い、安全文化の醸成を図る。特に、医師からのインシデントレポート提出促進を図るため、他職種からのインシデントレポートで医師の関与が大きい事例等は、医療安全管理室から直接医師へレポート提出を依頼する
- レポート提出にあたっては、各科で振り返ってもらい医療の質改善を図るきっかけとするため、従来から定められている事例報告に加え、合併症報告基準を定め、提出の促進を図り、医師のレポート提出が全体の10%になることを目標とする
- 提出されたレポートについて、カルテ記録、指示内容などを確認して対応するとともに、必要時は事実確認を行うため現場視察により、問題点を明確にしたうえで、医療安全ミーティングで改善策を検討する
- アクシデント報告については、報告会を開催し、医療過誤の有無、改善対策について検討する
- 院内事故調査制度について、中央市民病院医療安全会議で決定した院内事故調査の方針に基づいて、院内全死亡・死産例に対して対応する。2次検証が必要な事例に関しては事例検証会を実施し、報告事例かどうかの検証と改善策について検討する
- 同様のインシデント報告が続くときなどは、多職種でRCA分析を行い、改善策を検討する

(西市民病院)

- 有害事象の共有、再発防止、医療事故の発生予防のために、安全管理ニューズレターを発行し、職員への周知・徹底に努める
- 引き続き、医師等からの自発的なインシデント報告を安全管理ニューズレター等で促すとともに、報告事例の改善対策について検討する

(西神戸医療センター)

- 医療安全推進室長である専任医師及び専従看護師を中心とした医療安全推進室コア・ミーティングを週1回実施し、迅速な情報収集、問題点の把握・改善に努める
- 注意喚起文を発行するとともに、他病院での医療事故報道も含め、関連事項に関する研修会を企画し、実施する
- アクシデント報告については、症例検討会を開催し、医療過誤の有無、改善対策について検討する
- インシデントレポート提出促進を行い、安全文化の醸成を図る。特に、医師からのインシデントレポート提出促進を図るため、医療安全推進委員会等で啓発する

- ・医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。

具体的な取り組み

○公表にあたっては、引き続き外部委員、中央、西、西神戸医療センター及び神戸アイセンター病院を交えた市民病院間医療安全会議において検討を行い、信頼性と透明性の確保に努める

- ・感染管理医師、感染管理看護師を中心に、感染に関する情報発信を積極的に行うとともに、複数の医療職から構成する感染対策チームによる院内ラウンドを実施し、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室やリンクナースを中心に、効率的な感染対策への取り組みを進める
- 標準予防策、接触感染対策を全職員が実践できるように研修を行い、感染情報を全職員と共有し、耐性菌の検出率を減少できるように、体制を整える
- 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST) を立ち上げたため、チームとして抗菌薬適正使用の取り組みを積極的に行う
- 院内外の感染発生状況や予防に関する ICT ニュースを発行し、職員への周知・徹底に努める

(西市民病院)

- 専任の医師及び専従看護師を配置した感染管理室を中心に、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う
- 標準予防策、接触感染対策を職員が実践できるように研修を行い、感染情報を院内で共有し、耐性菌の検出率を減少できるよう努める

(西神戸医療センター)

- 専任の医師及び専従看護師を配置した感染防止対策室やリンクナースを中心に、院内感染防止のため定期的にラウンドを行い、院内での感染状況の評価や感染対策活動を積極的に行う
- 標準予防策、接触感染対策を職員が実践できるように研修を行い、感染情報を全職員と共有し、耐性菌の検出率を減少できるように、体制を整える

【中央市民病院】

- ・医薬品及び医療機器の安全確保のため、安全に関する情報の的確な提供・管理体制の充実を図る。また最新の医療薬学に基づいて患者中心の医療に沿った薬物治療を提供するとともに、職種間の連携を図りながら、医薬品適正使用の推進と医療の安全性の向上を図る。

具体的な取り組み

- 薬剤部 D I（医薬品情報）業務の充実を図り、院内への医薬品情報（医薬品安全性情報、副作用情報等）提供を行う。また、院内で発生した副作用情報については、引き続き迅速に情報収集し、医薬品医療機器総合機構（PMDA）への報告を行う
- 各病棟に薬剤師を常駐させ、入院患者に対する持参薬の確認等を行うことで、適正な薬物治療実施のサポートに努める。また、集中治療室、救急部門を含めた全病棟で薬剤管理指導のより一層の充実に努め、安全性の向上を図る。さらに、各病棟の担当薬剤師を固定化することで病棟スタッフとのコミュニケーションや患者の病態把握を充実させ、処方提案を実践する
- 薬剤師は手術室・デイスージャリーセンター等の中央診療部門において、麻薬、麻酔薬、向精神薬を管理し、麻酔医の負担軽減や適正な在庫管理を行う
- 薬剤師は外来がん患者に対する医師診察前予診による服薬支援等、薬剤師外来を活用した患者指導の充実を図ることで、抗がん剤投与に伴う安全性の確保に努める
- 薬剤師は外来院外処方せんの疑義照会に関する対応プロトコールをもとに医薬品の適正使用を推進し、円滑な対応により外来医師の負担軽減に努める

【西市民病院】

- ・医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。また薬剤師の病棟配置による医薬品管理、処方監査、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。

具体的な取り組み

- 全病棟への病棟薬剤師の配置を継続し、病棟での薬物治療の安全管理を徹底するとともに、患者サービスを向上させる
- 注射薬について、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続するとともに、患者誤認や投薬誤りを防止する三点認証システムの円滑な運用を継続する
- 「入院前お薬確認外来」の充実により、入院前に常用薬のチェックを行うことで、より安全な医療を提供する
- がん患者に対して化学療法やその副作用等について薬剤師による説明を行い、患者サービスを向上させる

【西神戸医療センター】

- ・医療機器の計画的更新及び主要機器の保守等、安全管理の徹底と医療機能の確保を図る。また薬剤師の病棟配置による医薬品処方、調剤及び与薬における安全管理を徹底する。

- ・感染防止対策室を中心に定期的なラウンドを行うことで、院内感染防止対策について啓発していく。

具体的な取り組み

- 全病棟への病棟薬剤師の配置を継続し、病棟での薬物治療の安全管理を徹底するとともに、患者サービスを向上させる
- 入院時、又は入院前に持参薬等のチェックを行うことで、より安全な医療を提供する
- 薬剤師外来において、外来化学療法やその副作用について説明を行い、患者サービスを向上させる
- 注射薬について、患者個人毎・1施用毎の払い出しを継続するとともに、患者誤認や投薬誤りを防止する三点認証システムの円滑な運用を継続する
- N95 フィットテスト等感染予防方法について定期的に指導することで、引き続き職業感染対策を積極的に行う

関連指標

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	医療安全委員会等開催回数（回）	12
	医療安全研修等実施回数（回）	167
	インシデントレポート報告件数（件）	5,106
	うちアクシデントレポート報告件数（件）※ ¹	10(19)
	感染症対策委員会等開催回数（回）	12
	感染管理チームラウンド回数（回）	週 1(対象菌発生時にはその都度)
	感染管理研修等実施回数（回）	71
西市民病院	医療安全委員会等開催回数（回）	12
	医療安全研修等実施回数（回）	19
	インシデントレポート報告件数（件）	1,784
	うちアクシデントレポート報告件数（件）	6
	感染症対策委員会等開催回数（回）	12
	感染管理チームラウンド回数（回）	61
	感染管理研修等実施回数（回）	33
西神戸医療センター	医療安全委員会等開催回数（回）	13
	医療安全研修等実施回数（回）	190
	インシデントレポート報告件数（件）	2,426
	うちアクシデントレポート報告件数（件）※ ¹	4（19）

	感染症対策委員会等開催回数（回）	12
	感染管理チームラウンド回数（回）	48
	感染管理研修等実施回数（回）	120

※1 （ ）書きは合併症（検査や治療に伴って、ある確率で不可避に生じる病気や症状）を含む。

(3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底

- ・市民からの信頼を確保するために、職員一人ひとりが医療提供者であるという意識を持ち、医療法（昭和23年法律第205号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守を徹底するため、院内における職場研修を定期的実施し周知徹底を図る。

具体的な取り組み

- コンプライアンス推進本部を中心に、コンプライアンスの徹底のための取り組みを継続して実施する
- コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践することを目的として、職場内研修や新規採用職員研修・フォローアップ研修等の各階層における研修において、コンプライアンスやサービス事故防止策等を取り入れた研修を実施する
- 監事や会計監査人による監査に適切に対応するとともに、自主監査や情報セキュリティに関する監査を実施する
- 臨床研究をはじめとした科研費等の外部資金に係る内部監査等を実施する
- 各種研修受講や事務規程遵守の徹底のための取り組みを実施する

4 市民及び患者とともに築くやさしい病院

(1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

- ・患者満足度調査等の実施により患者ニーズを把握し、必要な改善を適宜行い、ボランティアとも連携し、患者の視点に沿った病院づくりを進める。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

- 病院スタッフの接遇や療養環境などに対する患者満足度の現状把握及び改善すべき事項の抽出を行う
- 引き続き、入院前準備センターでの入院オリエンテーション、入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めるとともに、社会的背景の確認による早期の患者支援を図る

○眼科跡地改修による診察室の増室等により，外来機能の強化を図る

(西市民病院)

○患者満足度調査の実施や意見箱の設置等により患者ニーズを把握し，サービス向上に努める

○既存施設改修により，院内案内表示のリニューアル及び物販・飲食スペースの拡充による患者サービスの向上を図る

○引き続き，ボランティアとの意見交流会を定期的実施し，患者ニーズの把握を行い，必要な改善を行う

(西神戸医療センター)

○患者満足度調査の実施や提案箱の設置等により患者ニーズを把握し，サービス向上に努める

○新たに設置した入院前支援センターにおいて，入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めるとともに，社会的背景の確認による早期の患者支援を図る

○引き続きボランティアとの意見交流会を定期的実施し，現場での患者ニーズの把握を行い，必要な改善を行う

○病院スタッフの接遇向上のため，定期的に研修を実施する

- ・患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう，総合的な待ち時間対策やアメニティの向上，安全かつ良好で治療効果や食生活の改善に繋がる入院食の提供，安らぎと楽しみを与えられる取り組みの実施等，患者サービスの向上を図る。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○携帯端末を用いた呼び出しシステムによる待ち時間の有効活用及び自動精算機による会計待ち時間の短縮を推進する。特にFAX紹介の新患を優遇し，待ち時間のないように調整するとともに，引き続き外来の待ち時間調査を実施し対策を検討する

○外来に設置したデジタルサイネージを有効活用することで，患者サービス向上に努める

○FAX予約については，地域医療機関の要望に沿えるよう受け入れの円滑化に努める。また，FAX予約患者への優遇措置の充実に取り組み，FAX予約の利用を地域医療機関に働きかける

- 特別治療食の必要な患者には適正な治療食を提供し、治療効果につなげるとともに、特別食加算の算定増を目指す。また、特別食加算算定のための病名入力が見落とされなく行われる運用を実施する
- 特別治療食を提供している患者には、治療食の説明や栄養指導を実施していく
- 小児、周産期の栄養管理に関しては、県立こども病院と情報交換を図り、出来る限り食事サービスや栄養管理に関しては同等の内容を提供する
- 病院食は、院内治療食指針に基づいた治療効果を保ちながら、患者の苦情、要望を参考に満足度の向上を目指し、常に改善を行う
- H30年度電子カルテ更新に伴い、効率の良い選択食について検討し実施する

(西市民病院)

- 総合案内機能を継続し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス、患者が多い時のきめ細かい対応等を行う
- 院内コンサートや夏まつりの継続開催等による、やすらぎの提供のほか、患者サービスの向上を図る
- 入院食事アンケートの結果も踏まえ、引き続き、入院食の内容を充実させる等、入院食の満足度の向上を図る
- 患者一人ひとりの病状に応じた治療食の提供や栄養管理及び栄養指導を行い、治療効果の向上や退院後の生活習慣改善の支援につなげる

(西神戸医療センター)

- 総合案内機能を継続し、どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス、患者が多い時のきめ細かい対応等を行う
- 院内コンサートの継続開催等による、やすらぎの提供のほか、患者サービスの向上を図る
- 特別治療食の必要な患者には適正な治療食を提供し、治療効果や退院後の食生活改善に繋げる他、必要に応じて栄養指導を実施していく
- 入院食事アンケートの結果も踏まえ、引き続き、化学療法対応食（すみれ食A〈ケモ食〉・すみれ食B〈しみない食〉）や、選択食等の入院食の内容を充実させる等、入院食の満足度の向上を図る

- ・「患者の権利章典」の下、患者中心の医療を常に実践し、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、患者自身が医療方針を適切に自己決定できるように支援する。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

- 患者サポートセンター（かかりつけ医相談窓口・患者相談窓口）においては、引き続き患者や家族に対する総合的支援の強化を図る。かかりつけ医相談窓口では、患者が治療の不安を解消しながら、「かかりつけ医」を持てるよう患者支援の充実と逆紹介機能の強化を図る。また、患者相談窓口では、医療・医療安全・介護・福祉等の相談について看護師と医療ソーシャルワーカーが対応する
- 患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する

（西市民病院）

- 患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する

（西神戸医療センター）

- 患者からの依頼に応じ、引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する

- ・患者の利便性がより向上するよう、病院へのアクセス改善や国際化の進展等による多言語への対応等、だれもが利用しやすい病院づくりを行う。

具体的な取り組み

- 医療通訳制度について遠隔通訳の導入を検討するなど実施方法を工夫することで持続的な制度を構築し、外国人患者にとって安心かつ適切な医療サービスの提供に取り組む

（中央市民病院）

- 案内表示の多言語化表記に加えて、患者へ配付する印刷物やホームページ等についても、多言語化対応を継続していく
- 外国人に対して、一般外来フロアに外国語に対応できるスタッフの配置やボランティアによる通訳のほか、民間通訳事業者の紹介などを行う

（西市民病院）

- 外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう、医療通訳制度を継続する

（西神戸医療センター）

- 外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう、医療通訳制度を継続する

関連指標

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（%） （満足＋やや満足）	99.5
	患者満足度調査結果（外来患者）（%） （満足＋やや満足）	97.2
	入院食事アンケート結果（%） （満足＋やや満足）※ ¹	81.6
	ボランティア登録人数（人）	78
	ボランティア活動時間（時間/月）※ ²	494
	セカンドオピニオン受付数（件）	171
西市民病院	患者満足度調査結果（入院患者）（%） （満足＋やや満足）	94.3
	患者満足度調査結果（外来患者）（%） （満足＋やや満足）	94.6
	入院食事アンケート結果（%） （満足＋やや満足）※ ¹	81.7
	ボランティア登録人数（人）	32
	ボランティア活動時間（時間/月）※ ²	170
	セカンドオピニオン受付数（件）	3
西神戸医療センター	患者満足度調査結果（入院患者）（%） （満足＋やや満足）	95.7
	患者満足度調査結果（外来患者）（%） （満足＋やや満足）	92.3
	入院食事アンケート結果（%） （満足＋やや満足）※ ¹	83.0
	ボランティア登録人数（人）	42
	ボランティア活動時間（時間/月）	155
	セカンドオピニオン受付数（件）	15

※¹ 中央市民病院及び西市民病院については、患者満足度調査結果より、西神戸医療センターについては、食事に関するアンケートより

※² 実際のボランティア活動者（兵庫県ボランティア・市民活動災害共済加入者）数を記載

(2) 市民及び患者へ開かれた病院（市民への情報発信）

- ・市民病院の機能や役割について市民及び患者に広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

- 引き続き、市民への情報提供を強化するために、ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに、患者向け広報誌を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する

（西市民病院）

- 利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」の発行やリニューアルしたホームページの適宜更新により、診療情報や新しい取り組みについて情報を提供する

（西神戸医療センター）

- 引き続き、市民への情報提供を強化するために、ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに、患者向け広報誌「そよかぜ」を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する

- ・患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や各種教室及び患者サロン等の充実を図り、全ての市民の健康向上のため、市とともに健康づくり施策に取り組む。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

- 国指定地域がん診療連携拠点病院として、院内外を問わず、あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口として運営していく
- がん相談支援センターにおいて、がん患者への支援や情報提供を行い、がん市民フォーラム inKOBE、がんサロン開催や暮らしの相談（就労支援）に取り組む等、がん患者支援の強化を図る
- 糖尿病教室や消化器病教室等各種患者及び市民向け教室の開催と充実に取り組む
- 健康・疾病予防・疾病と食事の関連を具体的に示し、情報を発信する
- 病院食の情報、疾病の重症化予防に向けた情報を発信する

（西市民病院）

- 市民公開講座や患者向け教室において、医師やコメディカルがそれぞれの立場で講師を行い、市民の健康向上や患者へのきめ細かい情報提供に努める

(西神戸医療センター)

- 院内外を問わず、あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口としてがん相談支援センターを運営していく
- 糖尿病教室や禁煙外来、がん患者教室等各種患者向け教室及び「身近な保健医療講座」等の市民向け講座の開催と充実に取り組む

関連指標

(単位：回)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	各種教室等開催回数 ^{※1}	33
	市民向け広報発行回数	しおかぜ通信 4
	ホームページアクセス回数	3,144,352
西市民病院	各種教室等開催回数 ^{※2}	26
	市民向け広報発行回数	虹のはし 3
	ホームページアクセス回数	82,895
西神戸医療センター	各種教室等開催回数 ^{※3}	30
	市民向け広報発行回数	そよかぜ 3
	ホームページアクセス回数	180,726

※1 心臓，糖尿病，腎臓，消化器病教室

※2 糖尿病，禁煙教室，市民公開講座

※3 糖尿病・禁煙・がん教室

5 地域医療連携の推進

(1) 地域医療機関との更なる連携

- ・地域医療機関のニーズを把握し、3病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行う等、地域医療機関との連携をより一層推進する。

【中央市民病院】

- ・連携登録医とのさらなる連携や高度医療機器の共同利用促進等、地域医療機関との協力体制を充実するとともに、後方支援病院の確保に努める。また、介護施設や福祉関係機関との情報交換も積極的に行う。

具体的な取り組み

- 地域医療連携センターにおいて、入院前準備センター等と連携して、患者が円滑かつ安心な治療を受けられるよう支援を行う

- 神戸市民間病院協会の会員病院など地域の医療機関との情報交換を密にし、急性期及び亜急性期の患者の転院や後方連携の強化に取り組む
 - 大腿骨頸部骨折や脳卒中等急性期から回復期へのリハビリテーションについては、地域連携パスを活用し、患者や家族のニーズを踏まえたうえで、できるだけ早期に継続したリハビリテーションが実施できるよう地域との連携を密に機能回復を図る。また、5大がんやその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る
 - 高度医療に対応した最新医療機器の導入等により、高度医療機器の共同利用等の促進に取り組み患者にやさしい検査・治療を提供する
 - 地域医療機関との顔の見える連携促進を図り、新たな連携先を開拓する
- ・地域医療水準の向上を図り、地域における機能分担と連携強化に繋がるよう、関心の高いテーマを中心にオープンカンファレンスや研修会を計画的に開催する。

具体的な取り組み

- 連携登録医に対しては、病院の情報を積極的に提供し連携しやすい環境を作るとともに、顔の見える連携の強化を図り、地域連携懇話会を開催する
- オープンカンファレンス、地域連携セミナー等の研修会を引き続き開催し、地域医療機関等にとって有用な情報を提供する等内容の充実に努め、院外からの参加の促進を図る

【西市民病院】

- ・各診療科の医師と地域医療機関の医師が顔の見える連携を図り信頼関係を構築することで、紹介・逆紹介をさらに推進し、市街地西部の中核病院として地域医療支援病院の役割を果たす。

具体的な取り組み

- 地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療部が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る
- 院長自らが地域医療機関訪問を行うことによって、さらなる連携強化に取り組む
- 各診療科・部門については、さらに積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との連携強化に取り組む
- 地域医療連携をより一層推進するため、地域医療機関との交流会や連携の会を積極的に開催する

【西神戸医療センター】

- ・開院当初より開催している医師会や歯科医師会と組織する連携システム連絡協議会や地域医師会との合同カンファレンスを継続する。また、医師による地域医療機関への訪問等により信頼関係を深め、垣根のない関係性を構築していく。
- ・地域医療支援病院として紹介・逆紹介のさらなる推進をはかり、円滑な転院調整等、地域医療機関との役割分担を確立していく。

具体的な取り組み

- 大腿骨頸部骨折や脳卒中・前立腺がんなどの疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め、地域の医療機関との連携を図る
- 地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け、地域医療室が中心となり、紹介患者の増加、逆紹介のさらなる推進を図る
- 診療科部長等とともに、より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって、「顔の見える連携」としてさらなる連携強化に取り組む
- 各診療科・部門については、積極的にオープンカンファレンスを実施し、地域医療機関との連携強化に取り組む

目標値

(単位：％，目標値は平成30年度)

病院名	項目	目標値	平成28年度実績
中央市民病院	紹介率	66.0以上	62.5
	逆紹介率	100.0以上	126.7
西市民病院	紹介率	50.0以上	53.0
	逆紹介率	70.0以上	101.1
西神戸医療センター	紹介率	60.0以上	70.3
	逆紹介率	80.0以上	103.4

関連指標

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	地域連携パス適用患者数 [※] (人)	227
	地域医療機関向け広報発行回数(回)	4
	オープンカンファレンス開催回数(回)	58
	オープンカンファレンス院外参加者数(人)	2,400
西市民病院	地域連携パス適用患者数 [※] (人)	49
	地域医療機関向け広報発行回数(回)	12
	オープンカンファレンス開催回数(回)	30
	オープンカンファレンス院外参加者数(人)	1,079

西神戸医療 センター	地域連携パス適用患者数※（人）	214
	地域医療機関向け広報発行回数（回）	13
	オープンカンファレンス開催回数（回）	102
	オープンカンファレンス院外参加者数（人）	1,633

※ 診療報酬上評価されているもの

(2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

- ・患者が安心して地域で療養できるように、入院初期からの退院支援及び地域の在宅診療医等との連携の強化に努める。

【中央市民病院】

- ・在宅診療医、訪問看護ステーション、ケアマネジャー及び福祉事務所等と緊密に連携しながら、退院前カンファレンス等を積極的に行って円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う。

具体的な取り組み

- 在宅復帰を見据えて、他病院の地域包括ケア病棟との連携強化を図る
- 居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、在宅交流セミナーを積極的に開催する
- 後方連携支援業務に従事する薬剤師は、入院前から介入する入院前準備センターの薬剤師及び入院期間に担当する病棟薬剤師と連携し、転院時等の薬剤情報の円滑な提供に努めることで、後方支援体制の充実を図る

【西市民病院】

- ・地域の訪問看護ステーションや医療・保健・福祉等の関係機関の後方支援機能を充実させる等、在宅支援を中心とした地域社会との連携を強化し、医療と介護の架け橋となる病院、地域医療の受け皿かつ砦となる病院を目指す。

具体的な取り組み

- 訪問看護ステーションの訪問看護師やケアマネジャーとの交流会を開催し積極的に意見交換を行うなど地域医療連携を強化し、在宅医療の支援を図る
- 訪問看護師やケアマネジャー等との退院カンファレンスや退院前訪問指導、院内外多職種交流会などを実施し、多職種の連携強化により円滑な退院支援に取り組む
- 訪問看護師など多職種の方を対象に「在宅療養カンファレンス」を開催し、退院患者の情報交換を行うなど地域医療連携の一層の推進を図る

【西神戸医療センター】

- ・地域の在宅診療医や居宅支援事業所，訪問看護ステーション等との切れ目のない連携に取り組み，在宅医療の円滑化，普及に努める。

具体的な取り組み

- 居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等と連携し，円滑に退院できるよう患者の状況に応じた支援を行う
- 入院時あるいは入院前からの退院支援への介入やリハビリの早期介入など院内における退院支援システムの再構築・強化に取り組む
- MSW，介護士，介護支援専門員，訪問看護師，理学療法士，作業療法士等と一緒に参加できるテーマのオープンカンファレンスを開催することで，医療と介護，病院看護師と訪問看護師の連携を図る

関連指標

(単位：件)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	退院調整実施件数	1,596
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0
西市民病院	退院調整実施件数	1,636
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0
西神戸医療センター	退院調整実施件数	4,803
	専門看護師及び認定看護師等による在宅訪問看護件数	0

6 神戸アイセンター病院の役割

(1) 高度医療及び専門医療等の充実並びに臨床研究及び治験の推進

(高度医療及び専門医療等)

- ・眼科領域における高水準の医療を提供する基幹病院として，一般診療だけでなく，様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れ，より高度で専門性を必要とする眼疾患に対応する。

具体的な取り組み

- 中央市民病院及び先端医療センター病院の眼科機能を集約・拡充し，高度専門医療の提供を継続するとともに，より安全で精度の高い最先端の手術等を積極的に行う
- 県下病院で初となる白内障手術機器フェムトセカンドレーザーを活用した先進医療等を積極的に行う

- 中央市民病院との連携のもと、全身疾患を有する患者及び眼科救急患者等への対応を行う
- 各部門が連携し、課題を共有し、改善を進め、診療体制を充実させる

- ・質の高い医療を提供するため、クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）を整備し、活用する。

具体的な取り組み

- クリニカルパスを活用して、医療の質の標準化を進め、新たな治療を開始する場合は新規パスを作成していく
- 委員会を開催しパス適用率を把握し、また診療報酬改定に伴いパスの内容を精査していく

関連指標

（目標値は平成 30 年度）

項 目		平成 28 年度実績
手術実施件数（件）		—
うち白内障手術（件）		—
うち硝子体手術（件）		—
うち緑内障手術（件）		—
硝子体注射件数（件）		—
レーザー治療件数（件）		—
検査人数（眼底三次元画像解析）（人）		—
検査人数（蛍光眼底造影検査）（人）		—
専門外来患者数（人）		—
クリニカルパス数（種類）	実 績	—
クリニカルパス適用率（%）	目標値	99.0%
	実 績	—

（臨床研究及び治験）

- ・より有効で安全性の高い治療を目指し、眼疾患に係る臨床研究及び治験に積極的に取り組む。なお、臨床研究及び治験の実施に当たっては、患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し、及び自分に合った治療法を選択できるよう、患者への分かりやすい説明を行ったうえで同意を得ること）を得るとともに、人権の保護、安全性の確保、倫理的配慮等を十分に行う。

具体的な取り組み

○臨床研究及び治験実施における院内の体制を構築するとともに、実施に当たっては、必要に応じて中央市民病院とも連携し、積極的に臨床研究及び治験を実施する。特に iPS 細胞を用いた臨床研究に取り組む

関連指標

(単位：件)

項目	平成 28 年度実績
治験実施件数	—
受託研究件数	—
臨床研究件数	—
論文掲載件数	—
学会発表件数	—

(医療安全及び医療関連感染（院内感染）対策)

- ・院内に設置する委員会等において、医療安全及び院内感染対策にかかる課題について議論を行うとともに、必要な情報を積極的に発信する等、医療安全及び医療関連感染（院内感染）対策の強化を図る。

具体的な取り組み

○医療安全及び感染防止に関する研修会を実施する等、必要な情報を積極的に配信し、職員の意識を高める

○患者の急変時は、中央市民病院と連携して、患者を安全に搬送するなどの対応を行う

- ・院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に障害を及ぼした事例）についての報告を強化し、その内容を分析することにより再発防止に取り組む。また、医療事故が発生した場合には、医療事故調査制度に基づき適切な対応を取るとともに、公表指針に基づき公表し、信頼性と透明性を確保する。

具体的な取り組み

○インシデント及びアクシデントについては、インシデント報告システムを活用し、迅速な情報収集を図るとともに、要因分析に努め、再発防止及び発生予防に取り組む

関連指標

項目	平成 28 年度実績
医療安全委員会等開催回数（回）	—
医療安全研修等実施回数（回）	—

インシデントレポート報告件数（件）	—
うちアクシデントレポート件数（件）	—
感染対策委員会等開催回数（回）	—
感染管理研修等実施回数（回）	—

(2) 市民及び患者とともに築くやさしい病院並びに地域連携の推進

(患者サービス)

- ・眼科特有の長時間になる院内滞在時間対策も含めて外来での待ち時間対策を行う。

具体的な取り組み

- 退院患者アンケートや意見箱の設置等による患者のニーズの把握に努め、院内での情報共有及び必要に応じた改善を図る
- 待ち時間を院内で快適に過ごすための取り組みを行う等、待ち時間対策を進める
- 栄養管理面で眼科患者に対応した患者サービスを行う

- ・病院の特色や疾患の治療方針等について、市民及び患者に幅広く知ってもらうため、広報誌やホームページを充実する等、情報を積極的に発信する。

具体的な取り組み

- ホームページを適宜更新し、診療情報や新しい取り組みについて市民に分かりやすく提供するとともに、定期的な広報を行うことで、積極的に市民への情報提供を行う

関連指標

項目	平成 28 年度実績
患者満足度調査結果（入院患者）（％） （満足＋やや満足）	—
患者満足度調査結果（外来患者）（％） （満足＋やや満足）	—
市民向け広報発行回数（回）	—
ホームページアクセス回数（回）	—

(連携の推進)

- ・地域医療機関との連携や機能分担を図り、高度医療及び専門的医療の必要な患者や入院患者を積極的に受入れるとともに、患者の病状に応じた地域医療機関への逆紹介を推進する。

具体的な取り組み

○地域医療機関との顔の見える連携に取り組み、信頼関係を構築するとともに、新たな連携先の開拓に取り組む

○薬薬連携を活用して、薬局薬剤師と連携を取ることで、患者満足度の向上を図る

- ・隣接する中央市民病院と患者の診療情報を連携することも含めて医療機能面における役割分担、連携の促進を図る。

具体的な取り組み

○中央市民病院との役割分担について、現状及び課題の情報共有を行うため、引き続き、中央市民病院との連携検討会議を開催する

○中央市民病院との電子カルテの相互閲覧機能を活用し、より円滑な患者の紹介・逆紹介を行う

- ・ビジョンパークを運営する公益社団法人 NEXTVISION と緊密に連携してロービジョンケア（視覚に障害がある人に対する支援）を進めるとともに、重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を果たす。

具体的な取り組み

○視覚に障害が残る患者を公益社団法人 NEXTVISION に紹介し、患者個人が必要としているサービスや情報を提供することで、リハビリや社会復帰につなげる

関連指標

（目標値は平成 30 年度）

項 目		平成 28 年度実績
紹介率（％）	目標値	50.0%
	実績	—
逆紹介率（％）	目標値	70.0%
	実績	—
オープンカンファレンス開催回数（回）		—
オープンカンファレンス院外参加人数（人）		—
市関連病院からの紹介患者数（人）		—
うち中央市民病院（人）		—
市関連病院への紹介患者数（人）		—
うち中央市民病院（人）		—

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 優れた専門職の確保

- ・すべての職種について、新卒採用のみならず、中途採用、外部登用、定年退職後の再雇用等、柔軟な採用形態を用いて、病院運営に必要な優れた人材を確保する。

具体的な取り組み

- 全国的な看護師確保の厳しい状況を踏まえ、県外も含めた採用選考の実施、合同就職説明会への参加、大学・専門学校等への訪問、修学資金貸付制度のPR等を行い、看護職員の確保を図る
- 柔軟な採用形態を用いて、引き続き、専門的な知識や経験を有する職員の確保に努める
- 事務職員・医療技術職員については、神戸市等の協力も得ながら、就職説明会へ参加するなどし、優れた職員の確保に努める
- 新専門医制度の開始に伴い、研修施設群の他施設と連携して優秀な人材の確保、育成に努める

(中央市民病院)

- 薬剤師レジデント制度、リハビリ職員レジデント制度、管理栄養士レジデント制度を活用し、優れた医療技術者の育成及び確保に努める

(西市民病院)

- 薬剤師レジデント制度を活用し、優れた人材の確保に努める

(神戸アイセンター病院)

- 視能訓練士レジデント制度の検討を行う

- ・国内の優れた病院や大学等との連携や教育及び研修の充実、県外を含む採用活動の促進等により高い専門性を持った優秀な人材を確保する。

具体的な取り組み

- 神戸市看護大学と定期的に情報交換を行うとともに、連携方策等について議論を深めながら、連携の強化を図り、看護職員の確保を図る

(中央市民病院)

- 近隣大学薬学部、薬科大学との連携により、職員同士の相互交流を図ることで、職員のスキル向上に努める

(西市民病院)

○大学医局への訪問・意見交換を通じて、大学との連携を強化し、優秀な人材確保につなげる

(西神戸医療センター)

○大学医局へ訪問を行う等連携を強化し、優秀な人材確保につなげる

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成 29 年 3 月現在
中央市民病院	専門医数（延人数）	288
	認定医数（延人数）	169
	臨床教授等（延人数）	23
	研修指導医数(延人数)	139
	専門看護師数	13
	急性・重症患者	4
	慢性疾患	1
	感染	1
	がん	3
	老人	1
	精神	1
	小児	1
	母性	1
	認定看護師数	33
	皮膚・排泄ケア	5
	集中ケア	3
	救急	3
感染管理	3	
がん化学療法	3	
緩和ケア	0	
がん性疼痛	1	
糖尿病	2	
手術	1	
摂食・嚥下障害	1	
乳がん	2	
不妊症	1	

	脳卒中リハ	1
	新生児集中ケア	2
	認知症	1
	慢性心不全	2
	がん放射線療法	1
	慢性呼吸疾患	1
	専門薬剤師（延人数）	75
	診療情報管理士数	9 (6)
	医療情報技師数	21 (5)
西市民病院	専門医数（延人数）	125
	認定医数（延人数）	92
	臨床教授等（延人数）	6
	研修指導医数(延人数)	19
	専門看護師数	4
	急性・重症患者	2
	老人	1
	精神	1
	認定看護師数	7
	皮膚・排泄ケア	1
	感染管理	1
	がん化学療法	1
	緩和ケア	1
がん性疼痛	1	
手術	1	
慢性呼吸疾患	1	
	専門薬剤師（延人数）	7
	診療情報管理士数	6 (2)
	医療情報技師数	10 (2)
西神戸医療センター	専門医数（延人数）	162
	認定医数（延人数）	79
	臨床教授等（延人数）	8
	研修指導医数(延人数)	90
	専門看護師数	5
	慢性疾患	1

	感染	0
	がん	2
	精神	1
	老人	1
	認定看護師数	14
	皮膚・排泄ケア	3
	集中ケア	1
	救急	2
	感染管理	2
	がん化学療法	1
	緩和ケア	1
	手術	1
	脳卒中リハ	1
	がん放射線療法	1
	小児救急	1
	専門薬剤師（延人数）	17
	診療情報管理士数	5（5）
	医療情報技師数	9
神戸アイセンター病院	専門医数（延人数）	—
	認定医数（延人数）	—
	臨床教授等（延人数）	—
	研修指導医数（延人数）	—
	診療情報管理士数	—
	医療情報技師数	—

※（ ）書きは嘱託職員，委託職員，派遣職員の有資格者数

(2) 職員の能力向上等への取組み

- ・市民病院職員としての使命感を持ち，高い専門性と協調性，豊かな人間性及びホスピタリティ（思いやり）の心を兼ね備えた職員を育成するため資格取得の促進，研修制度の充実を図る。

具体的な取組み

- 各階層における研修や，資格取得支援制度，研究休職制度，短期国内外派遣制度，自己啓発等休業制度及び看護職員に対する留学制度を継続的に実施し，職員の資質や専門性の向上を図る

(中央市民病院)

- 学術支援センター内外のスタッフによるセミナー、講習会を開催し、学術研究の一助とする。年1回定期的に開催している院内研究フォーラムを通じて職員の研究発表を紹介する取り組みを継続し学術研究に対する意識を高めていく
- 人材育成センターを利用した教育・研修機能を強化するとともに、多職種研修等の企画・実施により、優れた能力と豊かな人間性を持った医療人を育成する
- 臨床研修センターが中心となって研修環境の整備や研修生活の充実等の支援を行うことにより、研修医のモチベーションの向上を図る

(西市民病院)

- 新専門医制度の開始に円滑に対応し、人材の確保に繋げるため、臨床実習や臨床研修、専門医研修等の支援体制の構築を進める

(西神戸医療センター)

- 病院全体として学術研修部を中心に、臨床実習や臨床研修、専門医研修等の研修支援体制の充実を図る
- がん登録実務の精度を向上するため、引き続き県等の研修会へ参加する

(神戸アイセンター病院)

- 学会や院内外の研修会等にも積極的に参加し、すべての職員が必要な技能や知識の習得に努める
- 院内での部門ごとの勉強会や複数部門合同での勉強会を実施する

- ・若手の職員を中心として、将来の病院運営を担う人材を育成するため、OJTによる人材育成を基本にできるだけ多くの職場を経験させるよう積極的に人事異動を行う。

具体的な取り組み

- 長期的な人材育成を考慮し、様々な部署での経験が積めるよう、計画的に人事異動を行い、将来の病院運営を担う人材を育成する

- ・受託先の従事者も共に病院を運営するパートナーとして能力の向上が可能となるような環境の整備に努めるよう働きかける。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○病院経営のパートナーであるPFI事業者においても、医療安全の確保や感染管理への意識向上を図るため、医療安全や感染管理等の講習会への受講を促していく

(西市民病院)

○医事委託職員について、診療報酬請求や患者サービス向上などに関わる各委員会への参加により、病院運営のパートナーとしての資質向上を図る

(西神戸医療センター)

○医事委託職員について、診療報酬請求や接遇など各委員会への参加により、病院運営のパートナーとしての資質向上に努める

○医療安全や感染防止対策等の情報提供や研修会の案内について、院内グループウェアにより受託業者に対しても発信していくことで、情報共有を図るとともに研修会への参加を促進する

(神戸アイセンター病院)

○全委託事業者への院長ヒアリングを行うとともに、病院運営協議会にも参加することで、課題を共有し、改善に向けて話し合い、円滑な病院運営を図る

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	患者対応研修等参加者数 ^{※1}	364
	研究休職制度等利用者数	3
	資格取得支援制度利用者数	36
西市民病院	患者対応研修等参加者数 ^{※2}	43
	研究休職制度等利用者数	2
	資格取得支援制度利用者数	9
西神戸医療センター	患者対応研修等参加者数 ^{※1}	88
	研究休職制度等利用者数	2
	資格取得支援制度利用者数	7
神戸アイセンター病院	患者対応研修等参加者数 ^{※1}	-
	研究休職制度等利用者数	-
	資格取得支援制度利用者数	-

※1 委託職員等も含む。

※2 委託業者等が主催する研修会は含まない。

(3) 人材育成等における地域貢献

- ・ 公的病院の使命である救急及び急性期医療に加え、福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として、医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実を図り、地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。

具体的な取り組み

- 潜在看護師の復職支援対策として、兵庫県看護協会が実施する合同就職説明会への参加や、各病院において研修会を開催し、潜在看護師の復職支援についての取り組みを進める
- 神戸市看護大学等と連携を図り、看護学生の受け入れを行い、看護学生の能力向上に寄与する

(中央市民病院)

- 医師、看護師、薬剤師等医療系学生を積極的に受け入れる
- 「がん専門薬剤師研修施設」として、資格取得を目指す薬剤師を外部より受け入れ、講習会等を開催する

(西市民病院)

- 薬剤師等、医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い、人材の育成に貢献する

(西神戸医療センター)

- 医師、看護職員等医療系学生を積極的に受け入れる
- 薬剤師や技師等、医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い、人材の育成に貢献する

(神戸アイセンター病院)

- 医師、視能訓練士等の医療系学生の実習について、受入れ体制を整備する

関連指標

(単位：人)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	講師等派遣数（延人数）	1,108
	臨床研修医数	39
	専攻医数	122

	学生実習等受入数（延人数）	
	医学部生・歯学部生	767
	看護学生	3,589
	薬学部生	1,946
	臨床検査	190
	理学療法・作業療法・言語聴覚	2,115
	臨床工学	648
	管理栄養	95
	視能訓練	36
西市民病院	講師等派遣数（延人数）	155
	臨床研修医数	14
	専攻医数	21
	学生実習等受入数（延人数）	
	医学部生・歯学部生	221
	看護学生	2,509
	薬学部生	805
	臨床検査	148
	理学療法・作業療法・言語聴覚	102
	臨床工学	102
	管理栄養	200
	視能訓練	0
西神戸医療センター	講師等派遣数（延人数）	255
	臨床研修医数	19
	専攻医数	32
	学生実習等受入数（延人数）	
	医学部生・歯学部生	293
	看護学生	3,166
	薬学部生	668
	臨床検査	213
	理学療法・作業療法・言語聴覚	225
	臨床工学	102
	管理栄養	80
	視能訓練	308
	講師等派遣数（延人数）	-

神戸アイセンター病院	専攻医数	-
	学生実習等受入数（延人数）	-
	医学部生	-
	視能訓練	-
	その他	-

2 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

(1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

- ・組織及び職員それぞれの業績や、チーム医療をはじめ医療の質向上等への貢献が病院の経営及び運営に与えた影響等を総合的に評価する公平かつ客観的な評価制度を構築する。

具体的な取り組み

○全職種において人事評価を実施し、組織目標の達成や個人の能力伸長を図る

- ・昇任制度について、能力や経験等を踏まえた昇任資格の見直し等の改善を行い、優秀な職員を積極的に登用する。

具体的な取り組み

○法人職員の主任選考を実施し、意欲の高い職員を積極的に登用する

○アイセンター病院では、眼科単科病院の特性を生かして、医師の評価制度を整備する

(2) 働きやすい環境の整備

- ・病院で働くすべての職員にとってやりがいが持て、働きやすい職場づくりを行うため、職員ニーズを把握し、執務環境の改善等モチベーション向上につながる具体的な取り組みを実施する。

具体的な取り組み

○職員のモチベーション向上のため、職員表彰を継続して実施する（優秀職員表彰、善行職員表彰、永年勤続職員表彰）

○職員ニーズを把握するため、職員満足度調査の実施を検討する

（中央市民病院）

○眼科移転後の外来エリアの再編により、職員の執務環境の改善を図る

（西市民病院）

○限られたスペースを効率よく利用し、院内倉庫の共有化・整理を行うことで、職員の執務環境の改善を図る

(西神戸医療センター)

○既存施設改修により、職員の執務環境の改善を図る。

- ・育児等を行う職員が安心して働けるよう院内保育所等の充実や、超高齢社会への対応も踏まえた職員が働きやすい環境を実現するための制度の積極的活用及び一層の充実に取り組む。

具体的な取り組み

○育児・介護と仕事を両立できるよう、育児・介護に関する制度の充実を図る

(中央市民病院)

○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、引き続き院内保育所の利用しやすい運営に努める。また、病児保育についても利用しやすい運営となるよう努め、職員が働きやすい職場づくりをより一層図る

(西市民病院)

○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、職員の意見を聞きながら病児保育室の設置を進める

(西神戸医療センター)

○育児をしながら安心して勤務が続けられるよう、利用しやすい院内保育所の運営に努める。また、病児保育の運営を引き続き行うことで、職員が働きやすい職場づくりを継続する

(神戸アイセンター病院)

○院内保育及び病児保育については、中央市民病院と連携し、育児をしながら安心して勤務が続けられる体制を確保する。

- ・職員の負担軽減を図るため、職種間の連携や役割分担、民間事業者の活用等を促進するとともに、勤務体制の工夫及び改善等を行う。

具体的な取り組み

○医師・看護職員の負担軽減のため、医療クラークや病棟クラーク等の活用、職種間における連携や役割分担を引き続き進める

(中央市民病院)

- 外来クラークと文書作成補助等を行う医療クラークについて,引き続き業務内容の検討を行い,医師の負担軽減に努める
- 病棟クラーク及びナースエイドを活用し,看護職員等の負担軽減を図る

(西市民病院)

- 外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し,職種間の連携や役割分担により,医師・看護職員の負担軽減に努める

(西神戸医療センター)

- 外来クラークや病棟クラーク,ナースヘルパーやナースサポーター等の配置を継続し,職種間の連携や役割分担により,医師・看護職員の負担軽減に努める
- メディカルクラークの体制強化に取り組むことによる医師の負担軽減及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める

(神戸アイセンター病院)

- 外来クラークや病棟クラークを配置し,職種間の連携や役割分担により,医師をはじめとした医療職全体の負担軽減に努める

- ・職員の様々な相談窓口(メンタルヘルス・ハラスメント・内部通報等)について,積極的な周知を図り利用を促進するとともに,職場におけるストレスの解消やメンタルヘルスに関する支援を充実させる等,職員の精神的な健康の確保のための取り組みを充実する。

具体的な取り組み

- 労働安全衛生の確保のため,法人本部において3病院を統括する市民病院機構安全衛生委員会を開催して,機構内の情報共有を図り,必要な対策に取り組む
- 職員の心の健康の保持増進を図るため,職員自身が心の健康状態を自覚し,ストレスの軽減等に努め,不調の早期発見・対応ができるよう,全職員を対象にメンタルヘルスチェックを実施する
- リエゾンチームによるせん妄患者,うつ患者への診療サポートの充実を図り,職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む

(中央市民病院)

- リエゾンチームによるせん妄患者,うつ患者への診療サポートの充実を図り,職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む

(西市民病院)

- 夜間・休日に安心して診療活動を実施できる環境をつくるため、警察OBの毎日24時間配置体制を継続する

(西神戸医療センター)

- 精神科リエゾンチームによるせん妄患者、うつ患者への診療サポートの充実を図り、職員のメンタルヘルスサポート体制を強化して安心して勤務できる環境づくりに取り組む

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 安定的な経営基盤の維持

(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

- ・政策的医療に係る市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行う。
- ・医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、的確な経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特性を生かした、機動的かつ戦略的な病院経営を行うことにより、安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。

具体的な取り組み

- 会計規程等の関連規程の下、弾力的に運用できる会計制度を活用した予算執行を行う
- 財務データや診療データの各種経営指標による状況分析等を実施し、安定した経営基盤の確立に取り組む

(中央市民病院)

- 診療科別原価計算を活用した院長ヒアリングを実施し、各診療科の傾向把握・分析を通じて、各診療科部長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底し、安定した経営基盤の確立に取り組む

(西市民病院)

- 院長ヒアリングの機会を活用し、各診療科部長に経営の視点を踏まえた業務の遂行を促すとともに、戦略的投資による収益力の向上を図り、安定した経営基盤を維持する

(西神戸医療センター)

○年2回の院長ヒアリングを実施することで、経営状況について直接各診療科部長に伝達するとともに、経営の視点を踏まえて業務を行うことを促進し、安定した経営基盤の確立に取り組む

○戦略的投資による収益力の向上と安定した経営基盤の確立を実現するため、収益及び費用の分析方法（診療科別損益計算等）及び活用方法について検討する

（神戸アイセンター病院）

○各部門だけでなく全委託事業者への院長ヒアリングを行うとともに、病院運営協議会には全委託事業者も参加することで、経営状況を共有し、病院が一丸となって経営改善に取り組む、安定した経営基盤の確立を進める

目標値

（目標値は平成30年度）

病院名	項目	目標値	平成28年度実績
中央市民病院	単年度資金収支（百万円）	▲618	▲900
	経常収支比率（%）	100.3	99.7
	医業収支比率（%）	98.2(105.6)	97.7(103.5)
西市民病院	単年度資金収支（百万円）	▲314	▲320
	経常収支比率（%）	97.9	96.5
	医業収支比率（%）	92.1(99.9)	91.0(100.6)
西神戸医療センター	単年度資金収支（百万円）	713	331
	経常収支比率（%）	103.0	97.8
	医業収支比率（%）	99.9(105.8)	91.2
神戸アイセンター病院	単年度資金収支（百万円）	200	-
	経常収支比率（%）	99.2	-
	医業収支比率（%）	94.8(101.5)	-

※ 医業収支比率（%）の目標値（ ）内は運営費負担金等を含めたもの。

関連指標

（単位：%）

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	運営費負担金比率	6.7
西市民病院		8.0
西神戸医療センター		-
神戸アイセンター病院		-

(2) 収入の確保

- ・各病院の医療機能に応じた患者の受け入れ強化や適切な病床利用率の維持，DPC/PDPSを踏まえた在院日数の適正化，手術室や医療機器の効率的な運用，増収のために体制の充実・適正化等を行い継続的に安定した収入を確保する。

具体的な取り組み

- 機構の資金需要を予測した上で，留保資金について，大口定期，国債，地方債等での資金運用を積極的に行う
- 寄付金を積極的に受け入れるため，引き続き院内でPRチラシを配布するほか，寄付方法の利便性向上等に向けた取り組みを行うとともに寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行う。また，29年度より開始している企業からの寄付についても受け入れを行う
- 救急患者受入，紹介患者確保の強化による利用率の向上，DPC入院期間を意識した病床運営の取り組みによる入院単価の向上等による収益確保を行う

(中央市民病院)

- 南館を含めた病床の一元的管理を徹底し，救急部門，重症部門の効率的な運用を図る
- 専門外来等を積極的にPRし，新たな患者獲得を図るとともに，紹介・逆紹介をより一層推進し，地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める
- 南館及び眼科跡地等の新たに得られた病院資源の有効活用を進めていく

(西市民病院)

- 紹介・逆紹介のより一層の推進，地域医療機関との連携強化とともに，施設改修による診療機能の拡充を通じて，新規患者確保に努める
- 看護部病床一元管理者により，午前退院・午後入院を含め，円滑な病床利用に努める

(西神戸医療センター)

- 紹介・逆紹介をより一層推進し地域医療機関との連携を強化するとともに，救急車の受入れ推進方策を検討することにより新規患者確保に努める
- 新たに導入したPET-CTや，内視鏡センター，外来化学療法センターなどの機能を活用することで，医業収益の確保を進める

(神戸アイセンター病院)

○白内障をはじめとして手術件数の増加を図るとともに、先進医療手術件数の増加を図る

- ・診療報酬の徹底した分析を行い、増収のために体制の充実・適正化を図る等、継続的に安定した収入を確保する。

具体的な取り組み

○平成30年度診療報酬改定に基づき、収入増に繋がる新規項目や新たな加算の取得等に対応し、安定した収入を確保する

(中央市民病院)

○超急性期病院として救急、小児・周産期医療に注力するとともに、多職種によるチーム医療を推進するなど、診療報酬改定にきめ細かく対応する

(西市民病院)

○診療報酬制度と診療報酬請求業務内容の分析を徹底し、収入増に繋がる新たな加算の取得等にも積極的に対応する

(西神戸医療センター)

○平成30年度の診療報酬改定を踏まえて、診療報酬制度と診療報酬請求内容の分析を徹底し、収入増に繋がる新たな加算の取得等に積極的に対応する

(神戸アイセンター病院)

○診療報酬改定に対応して増収につなげるとともに、視能訓練士を増員し、検査件数の適正な増加を図ることで増収を図る

- ・未収金対策については、組織全体の取り組みとして、各病院で職場間の連携をより充実させ、その発生の未然防止を図るとともに、発生した未収金については回収率を向上させる。

具体的な取り組み

○未収金対策について、より効果的な取り組みが各病院で実施できるよう、検討会を適宜開催し、方法の検討や調整、ノウハウの共有、実施段階での協力を積極的に行う

○未収金の回収について、引き続き弁護士に債権回収を委託するとともに、支払い能力があるにも関わらず請求に応じない者については、簡易裁判所へ支払督促を申し立てるなど回収策の強化を図る

(中央市民病院)

- 医事課職員と協力法人で構成する既存の査定対策チームで、診療報酬の請求漏れや減点を防止する
またレセプト院内審査支援システムを活用し査定率改善に努める
- 医師に働きかけ当月請求率を上げていく

(西市民病院)

- 医事委託業者と連携し、診療報酬の請求漏れ防止や査定率改善のための現状分析及び対策について引き続き検討する

(西神戸医療センター)

- 医事委託業者とも連携し、診療報酬の請求漏れ防止や査定率改善のための現状分析及び対策について引き続き検討する

(神戸アイセンター病院)

- 診療報酬の請求漏れや査定内容についての現状分析及び対策等について、医事委託業者とも連携し、適正な診療報酬請求を行うための体制を構築する

目標値

(単位：％，目標値は平成 30 年度)

病院名	項目	目標値	平成 28 年度実績
中央市民病院	病床利用率※	一般	93.1
		精神	—
西市民病院	病床利用率※	91.7	85.6
西神戸医療センター	病床利用率※	一般	90.3
		結核	60.0
神戸アイセンター病院	病床利用率	66.0	—

※ 病床利用率 = [{ 毎日 24 時現在の在院患者数 + 退院患者数 (当日入院当日退院患者も含む。) } / 許可病床数 (中央は感染症病床，西神戸医療センターは結核病床を除く。) × 日数 (365 又は 366)] × 100

※ { 毎日 24 時現在の在院患者数 / 許可病床数 (中央は感染症病床，西神戸医療センターは結核病床を除く。) × 日数 (365 又は 366) } × 100 にて算出した平成 28 年度の病床利用率は中央市民病院 85.0%，西市民病院 78.7%，西神戸医療センター 80.9% となる。

関連指標

病院名	項 目		平成 28 年度実績	
中央市民病院	平均在院日数（日）		10.4	
	延患者数（人）	入院	236,932	
		外来	483,315	
	新規患者数（人）	入院	22,701	
		外来	86,392	
	患者 1 人 1 日当たり診療単価（円）	入院	95,833	
		外来	19,172	
査定減率（％）	入院	0.94		
	外来	0.14		
未収金額（百万円）	現年	38		
	滞納繰越	105		
西市民病院	平均在院日数（日）		12.4	
	延患者数（人）	入院	111,797	
		外来	209,636	
	新規患者数（人）	入院	8,992	
		外来	21,524	
	患者 1 人 1 日当たり診療単価（円）	入院	53,698	
		外来	14,732	
査定減率（％）	入院	0.32		
	外来	0.34		
未収金額（百万円）	現年	20		
	滞納繰越	41		
西神戸医療センター	平均在院日数（日）	一般	10.8	
		結核	64.1	
	延患者数（人）	入院	一般 結核	138,348 10,641
		外来	一般 結核	382,726 422
	新規患者数（人）	入院	一般	12,838
結核			165	

	外来	一般	37,833	
		結核	116	
	患者1人1日当たり 診療単価(円)	入院	一般 結核	65,562 26,190
		外来	一般 結核	13,669 18,149
	査定減率(%)		入院	0.59
			外来	0.19
未収金額(百万円)		現年	34	
		滞納繰越	18	
神戸アイセンター病院	平均在院日数(日)		-	
	延患者数(人)	入院	-	
		外来	-	
	新規患者数(人)	入院	-	
		外来	-	
	患者1人1日当たり診療単価(円)		-	
			入院	-
		外来	-	
査定減率(%)		入院	-	
		外来	-	
未収金額(百万円)		現年	-	
		滞納繰越	-	

(3) 費用の合理化及び業務の効率化

- ・固定費をはじめとした費用については、給与費比率、経費比率等病院経営指標を分析し、その削減や効率化及び平準化を図る。

具体的な取り組み

- 給与費比率、経費比率等を考慮しながら、給与費を始めとした固定費について、削減や効率化を図る方策を検討し、実施していく
- 固定費について、引き続き分析を行い、適正な職員配置を実施するとともに、共同購入を実施するなど4病院体制による合理化に向けた取り組みを進める
- システムや医療機器の更新時期を調整する等、減価償却費の平準化を図る工夫を行う

- 常任理事会へ毎月经営指標を報告することにより，定期的に経営指標の確認を行う。経費については，経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める
- 平成 31 年度の消費税増税を見据え，特に影響の大きい材料費及び委託費について，消費税負担の軽減に向けた対策を検討する

- ・医療を取り巻く状況の変化への対応，医療の質向上や医療安全の確保，患者サービス向上等に十分配慮した上で，業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。
- ・診療材料及び医薬品においては，市場調査に基づく価格交渉の継続実施や在庫管理の徹底，さらには多様な契約手法の活用等により，より一層の費用の削減を進める。

具体的な取り組み

- 調達から使用までの一貫したコストマネジメントへの取り組みに努めるとともに，必要な人員数や体制の精査を行い，中長期を見据えた費用の合理化を図る
- 在庫管理については，4 病院は使用実績を基に適正な在庫数量を設定し，在庫金額削減に努める
- 消耗品・診療材料の更なる共通化を図り，4 病院のスケールメリットを生かした材料費の削減に努める
- 4 病院で使用する材料の共同購入を進めるため，引き続き共通する消耗品の入札を行う
- 診療材料の購入にあたっては，ベンチマーク比較を行い，値引率が適正ではない材料の交渉を行う。また，医薬品については，9 月末までに薬価総額 50%以上の妥結率を達成できるよう取り組む。さらに，引き続き高い値引率を維持するために薬価交渉を行う
- 中央市民病院では、民間の共同購入組織に加盟し、診療材料の一部を共同購入することで材料費の削減に努める
- 医師の負担軽減のために設置したドクターズクラークの適正人数について検討し，人件費の削減に努める
- 薬剤部は医薬品の安全性を評価したうえで，後発医薬品の導入を促進する
- より公平・公正で効果的な入札・契約制度を構築していく
- 入札・契約に関する勉強会や研修会を開催し，理解を深めるとともに，透明性・公正性を高め，競争性がより働くよう取り組む

目標値

(単位：%)

病院名	項目	目標値	平成 28 年度実績
-----	----	-----	------------

中央市民病院	給与費比率	43.3	46.2
	材料費比率	31.7	31.1
	経費比率	19.0	17.6
西市民病院	給与費比率	58.2	58.8
	材料費比率	24.0	25.6
	経費比率	16.8	16.2
西神戸医療センター※	給与費比率	48.9	49.6
	材料費比率	27.0	27.8
	経費比率	18.7	26.0
神戸アイセンター病院	給与費比率	37.7	-
	材料費比率	29.7	-
	経費比率	21.6	-

※ 西神戸医療センターの平成 28 年度実績は会計制度が異なるため参考値として記載

関連指標

(単位：%)

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	後発医薬品の数量割合※	73.6
西市民病院		79.4
西神戸医療センター		81.7

※ 入院DPC/PDPSデータより

2 質の高い経営ができる病院づくり

(1) 質の高い経営体制の維持

- ・理事会や常任理事会を継続的に開催するとともに、理事長をはじめ院長や各部門長の権限の明確化や経営企画機能の強化等により、より質の高い経営ができる体制を確立し、維持する。

具体的な取り組み

- 毎月開催する常任理事会及び四半期毎に開催する理事会において、引き続き経営状況や事務事業を検証する

(中央市民病院)

- 院長がリーダーシップを発揮するとともに、全職員が経営状況や問題点及び責任を共有して引き続き経営改善に取り組み、短期的視点、長期的視点の両面から質の高い経営を進める

(西市民病院)

- 院長のリーダーシップの下、各診療科長や部門長をメンバーとする業務経営会議を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、長期的視点に立って、より質の高い経営を進める

(西神戸医療センター)

- 院長のリーダーシップの下、各診療科長や部門長で構成する病院運営協議会を開催し、経営状況のほか、病院全体の情報共有を行うとともに、長期的視点に立って、より質の高い経営を進める

(神戸アイセンター病院)

- 委託事業者も含めて全部門が経営感覚を持って業務に取り組むとともに、院長のリーダーシップの下、経営状況等について情報共有を行うとともに、全職員が経営意識を持ち、より質の高い経営を進める

- ・全職員が目標及び課題を共有し、P D C Aサイクル（計画、実行、評価及び改善の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）を確実に行うことやリスクマネジメント体制を構築することにより、経営改善に取り組み、長期的視点に立った質の高い経営を進める。

具体的な取り組み

- 月次決算や四半期毎の決算見込みと予算を比較、分析し、課題の把握及び収支改善に向けた取り組みを実施していく
- 診療科部長や部門長を対象とした院長ヒアリングを実施し、目標や課題の共有を行い、経営改善につなげる
- 引き続き、マネジメントシートにより、年度計画の達成状況の確認及び課題把握を行い、全職員の情報共有を図るとともに、P D C Aサイクルの活用を進める
- 市が策定する第3期中期目標を受けて、機構に求められる役割や地域医療構想など医療に関わる環境の変化を踏まえて、第3期中期計画を策定する
- 第2期中期計画の取り組み状況を検証し、業務改善につなげる

(2) 計画的な投資の実施

- ・人材の確保・育成や医療機能の充実を図るため、必要性や採算性を考慮し、着実に投資を行うとともに、その効果を検証する。

具体的な取り組み

- 引き続き人材の確保・育成に努めるとともに、適正な人員配置体制の構築を図る
- 各病院及び法人本部が共同して投資の必要性や採算性を分析し投資を行う。特に多額の固定費を増加させる電子カルテの更新については機構一体となった検討を行う
- 地域の医療ニーズ，近隣医療機関の状況等を分析した上で適切な投資を進める
- 高額な医療機器については，整備時に想定していた効果が得られているか，稼働実績及び収支等について四半期毎に事後検証を行う

(中央市民病院)

- 神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供し，市民の生命と健康を守るため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高い機器等の導入を図る
- 高額な医療機器について，投資額の平準化に努めるとともに，大型放射線機器を更に延命化するなど，経営状況に応じた投資に努める

(西市民病院)

- 高齢化が進む地域の特性や神戸市の政策の動向等を踏まえて，必要性和採算性を考慮し，医療機能の拡充を検討する
- 高度医療機器の更新及び整備について院長ヒアリングを行い，長期的な収益性を考えた判断を行うとともに，その効果を検証する

(西神戸医療センター)

- 高度医療機器の更新・整備については，経年劣化した機器の更新，安全性や精度がより高い機器等の導入を図るとともに，院長によるヒアリングを行ったうえで，長期的な収益性を考えたうえで判断する
- 経年劣化した既存設備の保全・改修を実施する

(3) 環境にやさしい病院づくり

- ・環境負荷軽減を図り，環境にやさしい病院づくりを行う。

具体的な取り組み

- 市が取り組んでいる「神戸市地球温暖化防止実行計画」の実現に向けて，CO₂排出量のさらなる削減に努める
- 省エネ法に基づく特定事業者としての年平均1%以上のエネルギー消費原単位の削減に取り組むとともに定期報告，中長期計画の策定と届出を行う

(中央市民病院)

- 環境負荷軽減のため、ゴミ分別の徹底を図り、古紙・ペットボトルのリサイクルなどにより廃棄物の削減に努める
- 省エネルギー熱源機器の効率的運用、照明・エレベーター・エスカレーター・換気・空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO₂の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを蓄積し、分析を行う

(西市民病院)

- 省エネルギー化の取り組みやCO₂排出量のさらなる削減を図る等、引き続き環境にやさしい病院づくりを行う

(西神戸医療センター)

- 省エネルギー推進委員会を中心に、空調温度のきめ細かな制御等、さらなるCO₂の発生削減に向けた取り組みを進め、エネルギーの使用量データを蓄積し、分析を行う
- ESCO事業を継続し、引き続き省エネルギーを推進する

(神戸アイセンター病院)

- 省エネルギー化の取り組みやCO₂排出量の削減を図る等、環境にやさしい病院づくりを行う

関連指標

(単位：%)

病院名	項目	平成28年度実績
中央市民病院	エネルギー使用削減率 (前年度比削減率)	▲2.1
西市民病院		▲3.4
西神戸医療センター		▲3.8
神戸アイセンター病院		—

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

1 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

- ・PFI事業者との連携をより密にし、最適な患者サービスや質の高い病院サービスを提供するとともに、病院運営の効率化を図る。また、互いに職務のプロとしての自覚と責任の下、病院を取り巻く環境の変化に適切に対応し、継続的に業務を改善及び発展させていく。

具体的な取り組み

- P F I 事業に関して，日常モニタリング，定期モニタリング，随時モニタリング等を行い，業務水準の達成状況を確認するとともに，業務品質や患者サービスの向上に引き続き取り組み，病院全体の業務改善を図っていく。また，病院と P F I 事業者が認識の共有を図り，診療機能の拡大・変化等にも柔軟かつ迅速に対応していく
- P F I 事業者（協力法人含む）も危機管理体制整備会議，院内合同防災訓練等に参加し，災害等の非常時にも迅速かつ柔軟に連携できるよう P F I 事業者と病院が一体となって危機管理に取り組んでいく

2 市関連病院との連携

- ・市関連病院（市民病院及び神戸リハビリテーション病院）相互に医療機能に応じて患者の紹介・逆紹介を行うとともに，各部門での連携会議や研修会等の開催，人事交流についても積極的に行う等連携の促進を図る。

具体的な取り組み

- 市関連病院間での人事交流について，効果的・効率的な連携のあり方の検討を行う

（中央市民病院）

- 市関連病院とは，医療機能に応じて相互に患者の紹介・逆紹介を行うとともに，職員の人事交流も積極的に行う等，さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む

（西市民病院）

- 放射線治療をはじめとして，医療機能に応じた患者の紹介・逆紹介を継続するとともに，職員の人事交流を行う等，市関連病院と密接に連携する

（西神戸医療センター）

- 医療機能に応じて相互に患者の紹介・逆紹介を行うとともに，職員の人事交流を行う等，さらに効果的かつ効率的な連携に取り組む

関連指標

（単位：人）

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	市関連病院からの紹介患者数	1,186
	市関連病院への紹介患者数	1,563
西市民病院	市関連病院からの紹介患者数	469
	市関連病院への紹介患者数	1,166

西神戸医療センター	市関連病院からの紹介患者数	357
	市関連病院への紹介患者数	766
市民病院との職員の人事交流数		
	一般財団法人神戸市地域医療振興財団	26
	公益財団法人先端医療振興財団	6
	一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団	0

3 神戸医療産業都市における役割

- ・神戸医療産業都市における役割として、臨床に応用される段階になった医療については、安全性と倫理性への十分な配慮の下に逸早く市民に提供する。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○臨床に応用される段階になった医療が速やかに市民に提供できるよう、体制の充実に努める

- ・中央市民病院は、臨床部門の核として周辺の高度専門医療機関等との役割分担を明確にした上で連携を図り、リーダーシップを発揮する。

具体的な取り組み

(中央市民病院)

○治験・臨床試験の支援体制を整備するとともに、周辺医療機関等とのネットワーク構築を目指す

関連指標

病院名	項目	平成 28 年度実績
中央市民病院	先端医療センターとの共同研究件数 (件)	4
	先端医療センターからの紹介患者数 (人)	574
	先端医療センターへの紹介患者数 (人)	369
	周辺医療機関*からの紹介患者数 (人)	719
	周辺医療機関*への紹介患者数 (人)	1,862
西市民病院	先端医療センターとの共同研究件数 (件)	—
	先端医療センターからの紹介患者数 (人)	43
	先端医療センターへの紹介患者数 (人)	182
	周辺医療機関*からの紹介患者数 (人)	—

	周辺医療機関※への紹介患者数（人）	—
西神戸医療センター	先端医療センターとの共同研究件数（件）	—
	先端医療センターからの紹介患者数（人）	12
	先端医療センターへの紹介患者数（人）	641
	周辺医療機関※からの紹介患者数（人）	—
	周辺医療機関※への紹介患者数（人）	—

※ 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター，西記念ポートアイランドリハビリテーション病院，一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院及び平成 28 年 5 月 1 日に開院した県立こども病院等をいう。

第 5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画

「第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置」を着実に実行することにより，運営費負担金等の交付の下，市民病院としての役割を果たすとともに，安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。

1 予算（平成 30 年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
営業収益	68,306
医業収益	63,524
運営費負担金	4,634
その他営業収益	148
営業外収益	1,359
運営費負担金	448
その他営業外収益	911
臨時利益	63
運営費負担金	63
その他臨時利益	0
資本収入	5,099
運営費負担金	226
運営費交付金	0
長期借入金	4,859
その他資本収入	14
その他の収入	0
計	74,827
支出	
営業費用	64,077
医業費用	62,728
給与費	29,221
材料費	20,062
経費	12,709
研究研修費	736

一般管理費	1,349
(給与費)	389
(経費)	941
(研究研修費)	19
営業外費用	825
臨時損失	1,805
資本支出	8,137
建設改良費	5,302
償還金	2,679
その他の資本支出	156
その他の支出	0
計	74,844

※期間中の診療報酬の改定，給与改定及び物価の変動等は0%と試算している。

[人件費の見積もり]

期間中総額 29,610 百万円を支出する。

なお，当該金額は，役員報酬並びに職員基本給，職員諸手当，時間外勤務手当及び休職者給与の額に相当するものである。

[運営費負担金の繰出基準等]

救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については，毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方による。

建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金等については，経常費助成のための運営費負担金等とする。

ただし，用地取得に係る建設改良費及び長期借入金元金償還金に充当される運営費負担金等については，資本助成のための運営費負担金等とする。

2 収支計画（平成 30 年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入の部	70,074
営業収益	68,704
医業収益	63,369
運営費負担金収益	4,634
補助金等収益	120
寄付金収益	28
資産見返運営費負担金戻入	0
資産見返運営費交付金戻入	254
資産見返補助金戻入	7
資産見返寄付金戻入	1
資産見返物品受贈額戻入	292
営業外収益	1,307
運営費負担金収益	448

その他営業外収益	859
臨時利益	63
運営費負担金収益	63
その他臨時利益	0
支出の部	71,437
営業費用	66,303
医業費用	64,968
給与費	29,634
材料費	18,580
経費	11,837
減価償却費	4,229
研究研修費	688
一般管理費	1,335
(給与費)	377
(経費)	923
(減価償却費)	17
(研究研修費)	18
営業外費用	3,327
(財務費用)	778
(控除対象外消費税償却)	215
(営業外雑支出)	2,334
臨時損失	1,807
純利益	▲1,363
目的積立金取崩額	0
総利益	▲1,363

※期間中の診療報酬の改定、給与改定及び物価の変動等は0%と試算している。

3 資金計画（平成30年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金収入	94,980
業務活動による収入	69,739
診療業務による収入	63,524
運営費負担金による収入	5,145
その他の業務活動による収入	1,070
投資活動による収入	229
運営費負担金による収入	226
運営費交付金による収入	0
その他の投資活動による収入	3
財務活動による収入	4,859
長期借入れによる収入	4,859
その他の財務活動による収入	0
前事業年度よりの繰越金	20,153
資金支出	94,980
業務活動による支出	66,810
給与費支出	29,611

材料費支出	20,062
その他の業務活動による支出	17,137
投資活動による支出	5,356
有形固定資産の取得による支出	2,041
無形固定資産の取得による支出	3,261
その他の投資活動による支出	54
財務活動による支出	2,678
長期借入金の返済による支出	2,055
移行前地方債償還債務の償還による支出	623
その他の財務活動による支出	0
翌事業年度への繰越金	20,136

※期間中の診療報酬の改定，給与改定及び物価の変動等は0%と試算している。

第6 短期借入金の限度額

1 限度額 10,000 百万円

2 想定される短期借入金の発生理由

- (1) 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応
- (2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応

第7 重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画

第8 剰余金の使途

決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備・修繕，医療機器の購入，人材育成及び能力開発の充実等に充てる。

第9 地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画（平成30年度） （単位：百万円）

施設及び設備の内容	予定額	財源
病院施設，医療機器等整備	5,302	神戸市長期借入金等

※1 金額については見込みである。

※2 各事業年度の神戸市長期借入金等の具体的な内容については，各事業年度の予算編成過程において決定される。

2 人事に関する計画（平成 30 年度）

- ・医療を取り巻く状況の変化への対応，医療の質向上や医療安全の確保，患者サービス向上等に十分配慮した上で，業務量に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。
- ・神戸市職員から法人職員への移行に伴う制度の整備を行う等，原則として法人職員で運営できる体制への移行を計画的に促進する。